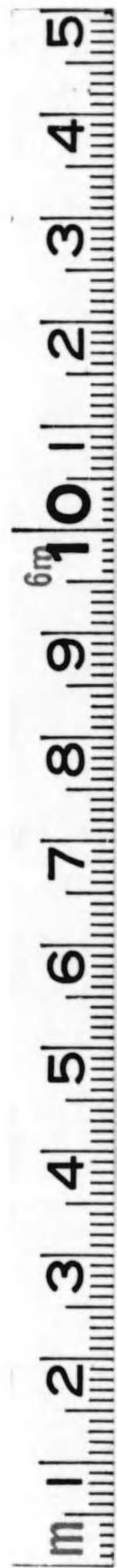


始



313  
356

# Thèmes Français



HAKUSUISHA  
TOKYO



特234  
342



「ラ・ヌム・ヌ」編輯部編

# 和文佛譯問題集



東京

白水社





注 意

- 註として附したる語彙は編者の任意選擇せるものにして參考にすぎず。研究者は必らずしも本書の註によるを要せず。
- 註に記せる動詞には不定法の形を保たしめ名詞には定冠詞を附したり。特別なる物はこの限りにあらず。
- \* 印を附して暗示的注意を與へたる個所もあれどこれとても絶對的のものにあらず。



第  
一  
部



(1) これは本です。—いいえ、それは本ではありませんよ。

(2) あなたの学校は何處にありますか。—此處から  
(1) かなり遠くにあります。

1. être assez loin de.

(3) 河には澤山水<sup>(1)</sup>がありますか。

1. il y a (ある)。

(4) あの人は庭に居<sup>(1)</sup>る。—それは本當ですか。

1. être dans.....

(5) あなたは時計をもつてゐますか。—いいえ、時計は持つてゐません。

(6) \* 私の家には九ツの窓があります。

\* 『家が窓を有つてゐる』とすればいい。

(7) 空は青く野は緑<sup>(1) (2)</sup>である。

1. la campagne. 2. vert.



(8) 本は私の従兄に送りました。

1. mon cousin. 2. envoyer.

(9) 私は今週一冊いい本を買った。—それを私に見せて下さい。

1. cette semaine. 2. acheter. 3. montrer.  
代名詞を補語とする肯定命令文の形に注意せよ。

(10) 私はお茶は好きません、一寸苦いからです。

1. ne pas aimer. 2. un peu amer.

(11) それはあの方の過失ぢやありません。

1. la faute.

(12) この牛乳を赤ん坊におやりなさい。

1. ce lait. 2. le bébé. 3. donner.

(13) あなたは何度佛蘭西においでになりましたか。  
—五六回まゐりました。

1. combien de fois. 2. aller en France (être en France. 3. 答では『佛蘭西に』を繰り返さず、代名詞を用ひよ。

(14) 何か面白いことがありますか。

1. intéressant. \* quelque chose de を用ふるのもよろしからう。

(15) 盥には水があるが、水差しには水がない。

1. le cuvette. 2. le broc.

(16) あなたは頭痛がしますか。—いいえ、頭痛はしませんが、二三日前から齒が痛んでゐます。

1. avoir mal à la tête. (頭痛がする。) 2. depuis quelques jours. 3. avoir mal aux dents. (齒が痛む。)

(17) そんなこと、私に言つて下さいませぬ。

\* 代名詞を補語とする否定命令文の形に注意せよ。1. dire.

(18) 昨日は日曜で、學校はなかつた。明日は僕等はまた休みになるだらう、受持の先生が風を引いて居られるから。

1. hier. 2. le dimanche. 3. 此の場合は la classe を用ひなければならぬ。4. demain. 5. avoir



congé. 6. notre professeur でいい。 7. être enrhumé.

\*  
(19) あなたのお母さまは部屋に居られますか。—はい、部屋に居ます。

\* 主格が名詞になつてゐる場合の疑問文の作り方に注意せよ。  
1. la chambre.

(20) あの女は手紙は受取つたが果物は受取らなかつた。あなたはあの方の母さんにその果物を送らなかつたのですか?—いや、一昨日送りました。

1. recevoir. 2. des fruits. 3. 否定疑問文の作り方に注意せよ。 4. sa mère. 5. non ではない。 6. avant-hier.

(21) 梟は醜い鳥である。

1. le hibou. 2. laid よりも affreux の方がいい。或は hideux でも horrible でもよろしからう。

(22) 生徒達の長椅子は木で拵へてある。

1. le banc. 2. être en bois.

(23) 今朝君は何を食べたか。—今朝僕はいくらかのパンと牛乳入りの珈琲をのんだよ。

1. ce matin. 2. qu'est-ce que と qu'est-ce qui との差違に注意せよ。 3. manger. 4. 『いくらか』の意は部分冠詞を使へば表すことが出来る。 5. avec. 6. le café au lait.

(24) 吉岡彌生は日本最初の女醫である。

1. la femme-médecin.

(25) 火と水は敵である。

1. être ennemi.

(26) 正義と真理は永遠な物である。

1. être éternel.

(27) 私は十月十一日附の手紙を今受取つた。

1. en date de. 2. venir de recevoir の現在を用ひて、recevoir の近い過去を表すことが出来る。

(28) 慈善は一の大變美しい徳である。



1. très. 2. beau.

(29) これ等の花は<sup>(1)</sup>良い香ひがする。

1. sentir bon.

(30) 秋には、無花果、林檎、梨、胡桃、栗等<sup>(2)</sup>が熟します。

1. en automne. 2. être mûr; mûrir.

(31) この客間はあなたの部屋より大分大きい<sup>(1)</sup>が、家具は大變少ない。

1. être meublé (家具がある) さいふ言ひ方を用ふるを便とす。

(32) 臺灣併合以前には、富士山<sup>(2)</sup>は日本の最も高い山であつた。

1. l'annexion de Formose. 2. le mont Fuji.

(33) あなたはお幾つですか。—二十五歳です。あなたの兄さん<sup>(1)</sup>より三ツ年上です。

1. être plus âgé que……de trois ans.

(34) 銘々<sup>(1)</sup>自分の考へがあるものです。<sup>(1)</sup>あなたのは書くことだし、<sup>(1)</sup>私のは読むことです。

1. chacun. 2, 3. は所有代名詞を用ひよ。

(35) 彼にはまだ<sup>(1)</sup>祖父母がある。

1. les deux aïeuls.

(36) 飲食は人生に於ける<sup>(2)</sup>すべてではない。

1. boire et manger. 2. tout.

(37) 彼は私<sup>(1)</sup>の腕<sup>(2)</sup>を捉へた。

1. かういふ場合は *mon bras* とは言はない。2. saisir.

(38) この品はよく<sup>(1)</sup>賣れます。

1. se vendre.

(39) 目上の人<sup>(1)</sup>に話をする時は帽子<sup>(2)</sup>を冠らないでゐる<sup>(3)</sup>がいい。

1. le supérieur. 2. rester découvert. 3. convenir.



(40) \* あの人は口も眼も開いてゐた。

\* 『開いた口と眼を有つてゐた』とすればいい。

(41) 學生の<sup>(1)</sup>多くは<sup>(2)</sup>勉強家だ。

1. la plupart de. 2. studieux.

(42) <sup>(1)</sup>あまり厚くない<sup>(2)</sup>塀を造るには大抵煉瓦を使ふ。

1. de peu d'épaisseur. 2. la brique.

(43) あの人は来ないのではないかと私は<sup>(1)</sup>心配してゐる。  
\* (あの人が来はしないかと私は心配してゐる)。

1. craindre. \* この場合の慣用語法に注意せよ。

(44) いい便りはいつも喜んで<sup>(1)</sup>迎へられる。

1. accueillir (迎へる。)

(45) 絶望はすべての悪の<sup>(1)</sup>うちで最も悪い。

1. de.

(46) <sup>(1)</sup>下らぬ詩こそ、<sup>(2)</sup>讀む値打が無い。

1. des méchants vers. 2. mériter d'être lu (讀まれる値打がある。)

(47) <sup>(1)</sup>佛蘭西の<sup>(2)</sup>商標は<sup>(3)</sup>世界到る處で好評をうけてゐる。

1. les marques françaises. 2. dans toutes les parties du monde. 3. jouir d'une bonne réputation.

(48) 白壁の上の方に<sup>(1)</sup>熟した<sup>(2)</sup>柿が見える。

1. par dessus. au dessus de でもよるしからん。  
2. on voit.....

(49) 金と銀は<sup>(1)</sup>貴重な<sup>(2)</sup>金屬であるが、<sup>(2)</sup>鐵ほど有用ではない。

1. le métal précieux. 2. utile.

(50) 人間は自然の中で最も弱い一本の<sup>(1)</sup>蘆にすぎない。が、これは<sup>(2)</sup>考へる蘆である。

1. ne.....que. 2. le roseau pensant.

(51) <sup>(1)</sup>旅行をすると<sup>(2)</sup>色々なことを<sup>(2)</sup>覺えるものだ。



1. voyager. 2. apprendre.

(52) 人々を<sup>(1)</sup>顔貌で判断すると時に<sup>(2)</sup>間違ふ<sup>(3)</sup>ことがある。

1. la mine. 2. parfois. 3. se tromper. 4. .... することがある。=il arrive que.....

(53) 秋は氣持のいい季節です。散策も亦<sup>(1)</sup>格別ですな。

1. être exquis.

(54) 宗教は天と地を<sup>(1)</sup>結びつける黄金の鎖である。

1. attacher.

(55) 子供は夕方まで<sup>(1)</sup>駆けずりまわつて外にゐた。

1. rester dehors courir.

(56) 彼が走る時ズボンの中でお金<sup>(1)</sup>の鳴る音が聞えた。

1. entendre quelque chose sonner.

(57) <sup>(1)</sup>内務大臣から<sup>(2)</sup>旅券を<sup>(3)</sup>下附された。

1. le Ministre de l'Intérieur. 2. le passeport. 3. accorder (附與する。)

(58) あの人は、己の境遇に満足して、幸に<sup>(2)</sup>暮してゐます。

1. être content de son sort. 2. vivre.

(59) この土堤に登るべからず。

1. le tertre. 2. défendre.

(60) 神の前では、富者も貧者も<sup>(1)</sup>平等である。

1. égal.

(61) 日露戦争は明治二十七年に<sup>(1)</sup>起つた。

1. éclater.

(62) 所得税は納税者の申告に據つて<sup>(4)</sup>徴集される。

1. les impôts sur les revenus. 2. le contribuable. 3. la déclaration. 4. percevoir (徴集する。)



(63) この頃は暖か<sup>(1)</sup>かつたり、寒<sup>(2)</sup>かつたりします。

1. ces jours-ci. 2. tantôt……, tantôt……

(64) 天気が變りはしないかと思つて、私は今朝傘を<sup>(1)</sup>持つて行きました。<sup>(2)</sup>

1. de crainte que. (43. を参照せよ) 2. emporter.

(65) 死んだお祖母さんは家のものから<sup>(1)</sup>可愛<sup>(2)</sup>がられてゐた。

1. feu. (mort を使つても勿論いい。feu の場合には、その一致に注意) 2. être aimé.

(66) その本を讀みたいんですが、お貸し下さいませ<sup>(1)</sup>んでせうか。

1. vouloir の條件法を用ひよ。

(67) 霜が降りた。野原は真白だ。草木は眠<sup>(1)</sup>つてゐる。<sup>(2)</sup>

1. geler を用ひてもいい。2. dormir.

(68) あの人達は、貧しい人達の苦しみを心から不憫<sup>(1)</sup>に思つてゐる。

1. s'apitoyer.

(69) 貧しい人々を壓迫<sup>(1)</sup>しないやうに用心するが<sup>(2)</sup>いい。汝は汝の造物主<sup>(3)</sup>を侮辱することになるだらう。

1. opprimer. 2. se garder de. 3. le Créateur.

(70) 宇宙は神の創造<sup>(1)</sup>した萬物の總體である。<sup>(2)</sup>

1. toutes les choses. 2. créer.

(71) 彼等は或る雪の朝に、布の大きな袋を肩にして<sup>(1)</sup>出掛けた。

1. par un matin de neige.

(72) 世界を創造<sup>(1)</sup>することは世界を理解<sup>(2)</sup>することほど不可能ではない。我々は、我々をも他人をも識<sup>(3)</sup>ることは到底出来ないだらう。

1. créer le monde. 2. moins impossible que…… 3. ni nous ni autrui.

(73) よんどころない用事がなければ五時までに伺<sup>(1)</sup>ひます。



1. l'affaire pressante.

(74) 幸福<sup>(1)</sup>になるためには労働が必要だといふことを一層よく青年達が識つてゐたら、望ましいことだが。

1. pour être. 2. il est à souhaiter (désirer) que……に=……は、望ましいことである。

(75) 彼等は翌日出発して永久<sup>(1)</sup>に國を離れて行かなければならなかつたのだ。

1. pour toujours. 2. s'en aller.

(76) 聖堂の懸時計は十二時<sup>(2)</sup>をうち、續いて御告げの鐘が鳴りました。

1. l'église でいい。2. 晝の十二時がなる。= sonner midi. 3. l'Angélus.

(77) よく事の是非を考へなさい。

1. les pour et les contre.

(78) 日本がどの位識られてゐないかといふ事を見て一驚を喫する。

1. à quel point on ignore……

(79) 偉人にして、その少年時代から孜々<sup>(1)</sup>として勉強しなかつた者は殆どない。

1. avec assiduité. 2. il y a peu de……

(80) あの人達は、少し騒がしかつたが、喧嘩してゐたのではない。

1. faire du tapage (des bruits). 2. se disputer.

(81) 數年前日光にゐた時二日も三日も降り續いたことが度度あつた。

1. pleuvoir consécutivement. 又は trois jours consécutifs としてもよろしからう。

(82) 新井白石は未だ幼<sup>(1)</sup>にして研學に異常な熱をもつてゐた。

1. encore enfant. 2. l'ardeur extraordinaire.

(83) あの女は私の知つてゐるうちで、最も淑かな人



です。

1. voilà la femme……とも言へる。 2. le plus  
……que……

(84) 僕は、昨日、A 君の葬式<sup>(1)</sup>に行つた。<sup>(2)</sup>

1. les funérailles. 2. aller assister à としなければ  
充分でない。

(85) 偉人は危険極まる企圖においても、滅多に失敗  
することはない。

1. rarement le grand homme échoue……  
(rarement on voit échouer les grands hom-  
mes……)

(86) いい御決心<sup>(1)</sup>が出来ましたら、その実行を断じて<sup>(2)</sup>  
延さないやうになさい。

1. former une bonne résolution. 2. différer.

(87) 貴方がお勧め下さるの<sup>(1)</sup>ですから、やつて見  
ませう。<sup>(2)</sup>

1. puisque (ですから。) 2. aller + 不定法 (近い未来。)

(88) 富も快樂も健康も、これ<sup>(1)</sup>を使ふことを知らない  
者<sup>(2)</sup>には害悪となる。

1. user de. 2. devenir des maux.

(89) 政府から許可をお受け<sup>(1)</sup>なさる譯にゆきませんか。

1. n'est-il pas possible……?

(90) 先刻お會ひになつた、兒<sup>(1)</sup>を背負つてゐたあの婦  
人は誰で御座<sup>(2)</sup>りましたか。

1. il y a un moment. 2. avoir (porter) sur  
le dos.

(91) 大商店では大抵、通信の爲に、<sup>(1)</sup>タイプライター<sup>(2)</sup>  
<sup>(3)</sup>を使用してゐる。

1. la grande maison de commerce. 2. la  
machine à écrire; le dactylographe. 3. se  
servir de.

(92) 昔、人々は太陽が地球<sup>(1)</sup>の周圍を廻るものと思つ  
てゐた。

1. autour de.



(93) 先達上りました時に、<sup>(1)</sup>あの事<sup>(3)</sup>について申し上げるのを失念致しました。

1. 代名詞を用ひよ。 2. parler de.

(94) もし行きたくば<sup>(1)</sup>連れて行つて呉れるやうに<sup>(2)</sup>たのんでやらう。

1. prendre quelqu'un. 2. demander.

(95) 今後は、金銭の<sup>(1)</sup>貸借は一切しません。

1. emprunter, prêter.

\*  
(96) もう少し早く病症が分つたなら、<sup>(1)</sup>助かつたかも知れない。

\* si (plus-que-parfait), (conditionnel passé) = 過去の事柄の否定を意味する条件文。 1. être sauvé.

(97) 持物が多くなればなる程不足が多くなる。

1. plus……plus.

(98) 役者を喝采したのではなくて、<sup>(1)</sup>芝居<sup>(2)</sup>を喝采したのです。

1. applaudir. 2. c'est……et non pas……que  
……の言ひ方を用ひる方がいい。

(99) 広い海を見渡して、<sup>(1)</sup>過ぎこし方<sup>(1)</sup>や行末を考へた。

1. considérer.

(100) 莫斯科<sup>(1)</sup>には腸窒扶斯<sup>(2)</sup>が前例<sup>(3)</sup>のない猛烈<sup>(4)</sup>さを以て暴威<sup>(5)</sup>を振ふてゐる。

1. Moscou. 2. la fièvre typhoïde; le typhus abominal. 普通前者を用ふ。 3. avoir un précédent. (前例がある)。 4. la vigueur. 5. faire rage; régner.

(101) この家で突然<sup>(1)</sup>火事が起るやうなことがあると<sup>(2)</sup>假定して御覽なさい。容易<sup>(3)</sup>に逃げられるでせうか。

1. venir à éclater. 2. supposer. 3. s'échapper sans difficulté.

(102) ひげ<sup>(1)</sup>を剃つてゐる間<sup>(2)</sup>何も云はないで下さい。

1. se raser. 2. pendant que.



(103) 敵に對抗<sup>(1)</sup>させられた兵の極く僅少であつたことが、我軍の戦敗<sup>(2)</sup>の原因である。

1. 敵に對抗させられる。= être opposé aux ennemis. 2. la défaite.

(104) 敵に對抗<sup>(1)</sup>させられた兵は極く僅少であつたが、勝利<sup>(2)</sup>を博した。

1. 極く僅少の兵。= le peu de soldats. 2. remporter la victoire.

(105) 我々日本人は、我國を去ることは好まない<sup>(1)</sup>。

1. nous autres, Japonais.

(106) 自己の肉體<sup>(1)</sup>しか知らない者は、己に屬するものは識つてゐても己といふものを知らない<sup>(2)</sup>。

1. ne connaître que. 2. ce qui est à……

(107) 言ふことと、考へてゐることとが、随分違ふ場合がまゝある<sup>(1)</sup>。

1. ce qu'on dit.

(108) 傲慢な人々は自分のしなかつたことをさへ<sup>(1)</sup>誇る<sup>(2)</sup>。

1. l'orgueilleux. 2. se vanter de.

(109) 明日御出發ですね。それちや、朝<sup>(1)</sup>のうちにすつと早くお目<sup>(2)</sup>にかかりに参りませう<sup>(3)</sup>。

1. Eh bien; alors. 2. dans la matinée. 3. aller voir. (會ひに行く。)

(110) 霜が下りない様になつてからでなければ芝を植ゑても駄目だ<sup>(1)</sup>。

1. jusqu'à ce que……といふ言ひ方もある。 2. il est inutile de.

(111) 才能よりも品性を<sup>(1)</sup>あてにして、私はあの男を雇つた<sup>(2)</sup>。

1. pour. 2. prendre.

(112) あの會社は初めのうち大變利潤<sup>(1)</sup>をあげた。

1. gagner de l'argent.



- (113) <sup>(1)</sup> あんな説教は益より害が多い。  
1. pareil.
- (114) この嵐の爲に船が<sup>(1)</sup>顛覆して、乗客に<sup>(2)</sup>溺死した者がある。  
1. faire chavirer (顛覆させる。) 2. noyer.
- (115) あの方は<sup>(1)</sup>貴方に対して濟まない事を<sup>(2)</sup>してゐる。  
1. à votre égard. 2. se comporter.
- (116) あの方は、<sup>(1)</sup>氣を入れかへ<sup>(2)</sup>なければとてもものにはなるまい。  
1. changer d'idée. 2. jusqu'à ce que (.....するまで) を用ふるを便とす。 3. n'arriver à rien.
- (117) あの方は家具を買ふのに大した<sup>(1)</sup>金<sup>(2)</sup>をかけた。  
1. à を用ふるを便とす。 2. dépenser de l'argent.
- (118) <sup>(1)</sup>萬事を自分に都合のよい様にばかり<sup>(2)</sup>する人には、友人が澤山ない。

1. rapporter à soi. 2. quiconque を用ひるがいい。
- (119) あの方は、商賣で一向<sup>(1)</sup>儲けません。  
1. gagner.
- (120) 慎慮と反省とは、<sup>(1)</sup>困難な企圖に<sup>(2)</sup>成功する爲に<sup>(3)</sup>必要である。  
1. la prudence et la réflexion. 2. l'entreprise difficile. 3. réussir dans.
- (121) <sup>(1)</sup>晝が最も長く、夜が最も短い月は<sup>(2)</sup>六月である。  
1. la journée. 2. le mois de juin.
- (122) 人間の<sup>(1)</sup>本心は、教育、宗教、反省及び研學によつて<sup>(2)</sup>發達する。  
1. la conscience. 2. se développer.
- (123) 私の隣りの女は<sup>(1)</sup>狼に似た<sup>(2)</sup>雌犬と、<sup>(1)</sup>虎に似た雌猫を有つてゐます。  
1. 狼、虎は女性形を用ひよ。 2. ressembler à.



(124) 平凡な本を澤山讀むよりも、優れた作品を一二冊熟讀する方がいい。

1. le livre médiocre. 2. l'ouvrage excellent.
3. approfondir. 4. ……する方がいい。=valoir mieux.

(125) 靈魂は肉體と同じく修練によつてしか發達しない。

1. par l'exercice.

(126) 私は今受取つた手紙に返事をしなければならぬ。

1. venir de recevoir. 2. falloir.

(127) 精神機能は植物のやうなものだ。教養すればする程一層多く實を結ぶ。

1. les facultés de l'esprit. 2. cultiver. 3. donner de fruits.

(128) 若し惡がなかつたら、善もなくなるだらう。惡

は善の唯一の存在理由だ。

1. 存在する。=exister. 2. la raison d'être.

(129) 眞の友となるには、互に信頼し合はなければならぬ。

1. pour être…… 2. を信頼する。=être sûr de.

(130) 教授は毎日授業を終へるとすぐに急いで大學の圖書館にはいつて行つた。

1. 急いで……する。=s'empresser de…… 2. la bibliothèque de l'Université.

(131) 去年京都で知合ひになつた醫者に、昨日偶然大阪驛で再會した。

1. connaître. 2. revoir.

(132) 僕の先週注文した商品(pl.)はまだ着いてゐなかつた。

1. commander.



(133) あの人は明日此處へ來ます。そうしたら、我々  
は一ヶ月以内にフランスに出發しよう。

1. venir 或は être. 2. dans un mois.

(134) 私は、あなたが昨日御加減が悪るかつたとは存  
じませんでした。

1. être indisposé.

(135) あなたの御援助がなくても私が成功し得たと  
は他人に思はれますまい。

1. sans votre aide.

(136) あなたは、手紙が御手に渡るまへに開かれて讀  
まれてしまつてゐたと思ひになりますか。

1. avant d'avoir être remis (remettre).

(137) あの人は無効の一票を除き、満場一致で選舉さ  
れた。

1. le bulletin nul. 2. l'unanimité. 3. 選舉す  
る。= élire.

(138) 日日勢力を得つつあるボルシェヴィズムは、政  
治の局面を一變せしめるかも知れない。

1. de jour en jour. 2. le bolchévisme. 3.  
la face de la politique.

(139) 彼が苛酷な振舞をする事は避くべからざる  
ことである。

1. agir. 2. inévitable.

(140) 若しあなたがもつと早く話されたら、この職を  
獲られたでせうに。

1. plus tôt. 2. obtenir la place.

(141) 確かな話を聞きましたが、あなたは御健康上差  
支へなければ來週田舎へおいでになるさうですね。

1. assurer. を用ひてもいい。2. あなたの健康がこれ  
を許すならば。3. la semaine prochaine.

(142) 二學年の初めに、腸チブスに罹つて一ヶ月以上  
床についた。



1. la 2<sup>e</sup> année scolaire. 2. (100) 参照。

(143) 三日の間といふものは、夜晝<sup>(1)</sup>揺れ通し(地震が)だつた。

1. les secousses ont continué.....

(144) 濕氣のある土地にでも、随分よく成長する竹もある。

1. le terrain humide. 2. pousser. 3. le bambou.

(145) 去る者は日々にうとし。

1. Loin de.....loin de.....

(146) 見ちがへる程あのあの女兒は綺麗になつた。

1. reconnaître を用ふるを便とす。2. si.....que の言ひ方もいい。

(147) こんなに雪が降つては、道路が<sup>(1)</sup>まる<sup>(2)</sup>でわからない。

1. tout à fait. 2. distinguer.

(148) こんなに風が吹いては、鷺は早くとべない。

1. pareil. 副詞を用ひるも可。2. (avec+名詞) の言ひ方もある。3. les hérons.

(149) 郵便船が着かぬ中は田舎へ行かれない。

1. le courrier. 2. avant que.

(150) 規則に従つて、今日で學校は休みになる。

1. d'après.

(151) 或人の心を支配してゐる情熱を知りさへすれば、大丈夫その人の氣に入ることが出来る。

1. la passion dominante. 2. pourvu que. 3. on est assuré de.....

(152) この人達は、すべての人々に世話をしてやるので、悪人にさへ<sup>(2)</sup>尊敬の念を抱かせる。

1. obliger tout le monde. 2. se faire estimer.



(153) 先頃の豪雨は、收穫に非常な害を及ぼした。

1. les grandes pluies. 2. faire du mal.

(154) あの女達は、私の會つた時は、東京驛に行つてゐた。

1. la gare de Tokio.

(155) 昨日の朝、郵便局へ行く途中で、あなたのお父さまにお逢ひしました。

1. hier matin. 2. en allant à……

(156) 私は、朝やり出してゐた仕事を済すとすぐに外出した。

1. commencer le matin.

(157) 見てゐらつしやい、來年はあの人は巴里へ行きますよ。雑務と辭書の仕事を片附けたら、あの人は直ぐに出發するでせう。

1. l'année prochaine. 2. les affaires et le travail du dictionnaire. 3. tout de suite.

(158) あなたが私にそんな事を言つて下すつても、私は信じないでせう。

1. dire. 2. croire.

(159) 羅馬人が希臘人よりも文明が進んでゐたと敢て主張する者は誰もない。

1. civilisé. 2. prétendre.

(160) 慄へながら、あの人は私に言つた。『こんなに苦しむよりか死んだ方がいい』。

1. trembler. 2. mieux valoir.

(161) たとへあなたが金持ちでも、貧しい人達を輕蔑してはなりません。

1. quoique. 2. dédaigner.

(162) 釣に行かれてもいい。が、その前にあなたの仕事をしてお終ひにならなければなりません。

1. aller à la pêche. 2. auparavant.



(163) 我々は幸福になるにつれて、猶<sup>(1)</sup>一層<sup>(2)</sup>幸福になりたいと思ふ。

1. à mesure que. 2. davantage.

(164) 指物師<sup>(1)</sup>にあなたの持つておらつしやるやうな箱<sup>(2)</sup>を拵<sup>(3)</sup>へさせ度い。

1. le menuisier. 2. pronom possessif を用ひよ。 3. commander でもいい。

(165) 私は自分に與へられた<sup>(1)</sup>良い意見<sup>(2)</sup>を思ひ出しては、それ<sup>(3)</sup>に従ふやうに努めてゐる。

1. les bons avis. 2. se rappeler. 3. 代名詞を用ひよ。 4. suivre.

(166) <sup>(1)</sup>どういふ年配でも、仕事を愛すること、研究に興味をもつことは良いことである。

1. dans tous les âges.

(167) 私は、五年以上逢はないで居た友人に、昨日往來<sup>(1)</sup>で偶然<sup>(2)</sup>出會つた。

1. voir. 2. rencontrer.

(168) すべて秘密の露見<sup>(1)</sup>は、秘密を<sup>(2)</sup>打明けた人の過失である。

1. la révélation. 2. confier.

(169) 我々は屢々、他人の缺點<sup>(1)</sup>を非難<sup>(2)</sup>してその美點<sup>(3)</sup>を認めないことがある。

1. le défaut d'autrui. 2. blâmer. 3. reconnaître.

(170) あの男は俺の年頃には世界を征服してゐた。それなのにこの俺はまだ何もしてはゐない。

1. à mon âge.

(171) 歐羅巴<sup>(1)</sup>を征服した後、ナポレオンはワーテルロー<sup>(2)</sup>に於て<sup>(3)</sup>敗れた。

1. conquérir. 2. Waterloo. 3. être vaincu.

(172) あの人達を<sup>(1)</sup>許して下さい。あの人達は自分達の



してゐることがわからないのです。<sup>(2)</sup>

1. pardonner. (この動詞のとり前置詞を研究せる。) 2. savoir.

(173) 數箇月以來、日本の商況は著しく活氣を帯びて來た。<sup>(1)</sup> <sup>(2)</sup>

1. la situation commerciale. 2. devenir actif.

(174) 明日天氣さへよければ私は満足です。<sup>(1)</sup>

1. pourvu que を用ひよ。

(175) 人間は、恰も朝に開き夕に萎れ足に踏み蹂られる花のやうに過ぎ去る。<sup>(1)</sup> <sup>(2)</sup> <sup>(3)</sup>

1. épanouir. 2. flétrir. 3. fouler.

(176) ホメロスの居た頃の人達は、地球は圓盤のやうに圓くて平いものだと考へてゐた。<sup>(1)</sup> <sup>(2)</sup> <sup>(3)</sup>

1. Homère. 2. le disque. 3. s'imaginer.

(177) 命ずる事は、普通、從ふことよりも困難である。<sup>(1)</sup> <sup>(2)</sup> <sup>(3)</sup>

1. commander. 2. d'ordinaire. 3. obéir.

(178) 不幸な人達を援助することは、萬人の義務である。<sup>(1)</sup>

1. assister le malheureux.

(179) 辯士はもつと聲を上げなければならなかつたであらう。<sup>(1)</sup>

1. il aurait fallu que……

(180) 健康も富も、これを濫用する人々にはその有難味がなくなる。<sup>(1)</sup> <sup>(2)</sup>

1. abuser. 2. la faveur.

(181) 私は赦免を乞うた。私の願は聽届けられた。<sup>(1)</sup> <sup>(2)</sup>

1. demander grâce. 2. accorder を受身に用ひよ。

(182) 突然敵は我が左翼の前面に現れた。<sup>(1)</sup> <sup>(2)</sup>

1. notre aile gauche. 2. faire son apparition.



(183) 數千の兵士が、支那に渡る爲、<sup>(1)</sup> 宇品から出發した。

1. aller en Chine. (cf. aller au Japon)

(184) 道中、我等は<sup>(1)</sup> 交語し、<sup>(2)</sup> 吟歌して、進みぬ。

1. tout le long de la route. 2. causer.

(185) 私は神を<sup>(1)</sup> 恐れ、神に次では、<sup>(2)</sup> 神を恐れない者を特に恐れる。

1. craindre. 2. après Dieu.

(186) 何人でも、己をしか愛しないものは誰からも愛されない。

1. quiconque.

(187) 父も母も子供達も家内中<sup>(1)</sup> 悲嘆に暮れてゐた。

1. être plongé dans la désolation.

(188) あなたは唯今<sup>(1)</sup> 口にされた言葉<sup>(2)</sup> を何日か後悔されるでせう。

1. prononcer. 2. un jour.

(189) 私は、<sup>(1)</sup> 星を鏤めた蒼穹の眺めよりも更に壯麗な眺めを何も知らない。

1. la voûte étoilée.

(190) 私の腕<sup>(1)</sup> がなくなつたら、人々が私を養つてくれるかどうか<sup>(2)</sup> わかるだらう。

1. manquer. 2. voir.

(191) あなたのお父さんか叔父さんか<sup>(1)</sup> が巴里駐在の大使に<sup>(2)</sup> 任命されなさるだらう。

1. l'ambassadeur à Paris. 2. être nommé.

\* (192) 眞理が我々に役に立たうと害にならうと、我々はこれを愛しなければならぬ。

\* 1. soit que……, soit que……

(193) よく<sup>(1)</sup> 育てられた子供は、父にも母にも目上の人々にも<sup>(2)</sup> 服従する。

1. élever (育てる). 2. obéir.



(194) 或る人の善い性質<sup>(1)</sup>とか悪い性質<sup>(2)</sup>とかを、その人の顔貌<sup>(3)</sup>から判断してはならない。

1. le naturel.
2. les traits de son visage.
3. juger.

(195) 自由、平等、友愛、これは佛國大革命の標語<sup>(1)</sup>である。革命の爲し果した事業をすべて約言<sup>(2)</sup>する標語である。

1. la devise.
2. résumer.

(196) この壁に掲示<sup>(1)</sup>をはつては<sup>(2)</sup>いけません。

1. apposer.
2. il est interdit……de……

(197) 繪畫<sup>(1)</sup>や彫刻<sup>(2)</sup>は美に親しむ心を養つてくれます。

1. le goût du beau.
2. développer.

(198) 母になると子供達の幸福<sup>(1)</sup>を願ふものだ。

1. être désireux de.

(199) 我々を最も愛<sup>(1)</sup>してゐる人々は、往々、我々に最

<sup>(2)</sup>も厳しく見える人々である。

1. le plus.
2. paraître sévère.

(200) 最もいい復讐<sup>(2)</sup>の方法は、我々に害を與へた人の真似<sup>(1)</sup>をしないことである。<sup>(3)</sup>

1. 最もいい方法 = la meilleure manière.
2. 復讐する = se venger.
3. 害を與へる = faire du mal.

(201) 人間はお互<sup>(1)</sup>に助け合はなければならぬ。<sup>(2)</sup>俱に<sup>(3)</sup>援助<sup>(4)</sup>を必要とするから。

1. l'un l'autre 或は les uns les autres.
2. 助け合ふ = s'aider.
3. l'un et l'autre 或は les uns et les autres.
4. avoir besoin de.

(202) 誰にも缺點<sup>(1)</sup>はある。だからお互<sup>(2)</sup>に忍び合はなければならぬ。

1. le défaut.
2. se supporter.

(203) 他人からされたくないことを他人<sup>(1)</sup>にしてはなりません。



1. ce que vous ne *vouloir* pas que les autres vous *faire*.

(204) 吾々に對する他人の行爲は、我々の行爲の反響である。

1. à notre égard. 2. 所有代名詞にて。

(205) あの人達は、貴君程乗馬に興味を持つてゐない。

\* 『……ほど……ない』は *moins……que……* を用ひよ。

(206) 或る場合場合で、話すのがいいこともあり、黙つてゐる方がいいこともある。

1. en certaines circonstances. 2. se taire.

(207) 「不可能」といふ言葉は佛蘭西語ではない、とナポレオン一世は言つた。

1. le mot «impossible».

(208) 何處の國から、この外國人が來たのか御存知ですか。

1. le pays d'où……ごするを便とす。

(209) あの人達は、いかにいい醫者であつても、不治の病は癒せないだらう。

1. quelque……que. 2. la maladie incurable.

(210) 自分に不満を抱きすぎることは一の弱點であり、自分に満足しすぎるのは愚なことである。

1. être mécontent de. 2. une faiblesse. 3. une sottise.

(211) 櫻の花の咲く時分はとかく曇りがちなものだ。

1. être en fleurs. 2. le temps nuageux.

(212) 千七百八十九年まで、佛蘭西は歴代の王に統治されて來た。千七百八十九年の大革命以來、佛蘭西は數回制度が變つた。

1. des rois. 2. gouverner. (統治する。)

(213) 私に何か御用が御座いましたら、前以て御知ら



せ下さいまし。

1. avoir besoin de. を用ひてもいい。

(214) 彼等はもう自分達の手で働ける年頃ではなかつた。

1. de leurs mains. 2. être en âge de (……の年頃である。)

(215) 若し私の友人の息子と娘とが頭がよければ、そのお父さんは幸福なのだが。

1. intelligent.

(216) 守れないことは何も約束してはなりません。

1. 約束を「守る」といふ時は tenir を用ひる。2. promettre.

(217) 最も惱ましい倦怠は快樂の倦怠である。

1. la lassitude. 2. 代名詞を用ひよ。

(218) 話をする前には、言はんとすることを篤と熟考せよ。

1. 言はうとする。= aller dire. 2. mûrement.

(219) 美しい女と善い女との間にはどんな違ひがあるか。—前者は寶石で、後者は賈だ。

1. quelle différence.

(220) 讀書にしろ散歩にしろ、等しく私を休息させてくれる。

1. ou……ou…… 2. reposer.

(221) 情に脆い人は、他人の苦痛を和げてやると、自分のも和げられる。

1. l'homme sensible. 2. soulager の現在分詞を使つてもいい。

(222) 黄金も偉大さも我々を幸福にはしない。

1. ni……ni…… 2. rendre heureux.

(223) 色々つまらないことをするよりも何にもしない方がました。



1. le rien.

(224) <sup>(1)</sup> 諷刺書は混亂と争闘との時代の自然的産物である。

1. les pamphlets.

(225) <sup>(1)</sup> 己を學者だと自負してゐる人は、何にも知つてやしない。自分が無智であることまで、一切知つてゐないのだ。

1. se croire savant. \* savoir, ignorer を使ひ分けよ。

(226) 是等のすべての花<sup>(1)</sup>の中で、これがいゝと思ひます。

1. ……の中で。= de…… 2. préférer. を用ひるも可。

(227) <sup>(1)</sup> 唯今貴君のお葉書をうけとりました、又九月二日及び三日の日附のお手紙は<sup>(2)</sup>前に受取りました。

1. venir de + infinitif (近い過去を表はす) (218 と比較) 2. antérieurement.

(228) 眞の友達だ。あの人から受けた世話<sup>(1)</sup>を僕は一生忘れないだらう。

1. les soins. \* 「あの人から」を代名詞で表はしてみるもよろし。

(229) この用事に<sup>(1)</sup>妨げられなかつたら私はもつと早く出發しただらう。

1. empêcher の大過去を用ひよ。

(230) <sup>(1)</sup> 中學校に於いては、一般に、一週間に三時間<sup>(2)</sup>体操<sup>(3)</sup>があります。

1. dans les lycées. 2. par semaine. 3. le gymnastique.

(231) <sup>(1)</sup> 人間には誰にも、力の減退する一時代<sup>(2)</sup>が來るものである。

1. pour tout homme. 2. ……が來る。= il vient……

(232) 火災は六時間<sup>(1)</sup>に亘つて二千六百戸<sup>(2)</sup>を舐めつくした。



1. à l'espace de six heures. 2. dévorer.

(233) <sup>(1)</sup>癒せさうにない苦痛も、我慢すれば<sup>(2)</sup>緩和されるものだ。

1. les maux qu'on ne *savoir* guérir. 2. être adouci.

(234) <sup>(1)</sup>それこそ、私が貴君にお話ししたかつたことです。

1. voilà de quoi……

(235) <sup>(1)</sup>そこへ行らつしやれば、お友達<sup>(2)</sup>の誰かにお會ひになるでせう。

1. 分詞法を用ひてもいい。 2. ………の誰か。= quelques uns de……

(236) 僕は、僕の希望を<sup>(1)</sup>率直に申します。しかし、それをお拒みにならうと、それを承諾なさらうと、全く<sup>(2)</sup>貴君の自由ですよ。

1. franchement. 2. être tout à fait libre de.

(237) 去年の暑さは<sup>(1)</sup>堪らなかつた。

1. intolérable.

(238) 富者と貧者は彼等<sup>(1)</sup>の勞作によつて判断されるだらう。

1. suivant les œuvres.

(239) <sup>(1)</sup>外交官や領事は<sup>(2)</sup>外務大臣<sup>(3)</sup>に従屬してゐる。

1. les agents diplomatiques et consulaires.

2. le ministre des Affaires étrangères. 3.

être sous la dépendance de; dépendre de.

(240) 勤勉で正直<sup>(1)</sup>であれば、殆ど飢死<sup>(2)</sup>する危険はない。

1. quand on est……としてもいい。 2. être en danger de……(……の危険に瀕する。)

(241) あいつは怠け者だ。あいつはどうもよろしくない。あいつに手傳<sup>(1)</sup>はれなくともかまわん。

1. se passer de. (なくてすまず。)



(242) 私は、一切の経過をあの人に知らせなくてはならない。

1. avertir quelqu'un de quelque chose.

(243) 今日(1)の世の中には金といふ言葉(2)より魔力のある言葉はない。

1. 「今日の世の中」は aujourd'hui でもいい。 2. plus magique que.

(244) 何時も御健在(1)で誠に結構(2)です。

1. en bonne santé. 2. le plaisir sans égal を用ゐる言ひ方もある。

(245) 十歳の子供達(1)が喫煙(2)する、これは自殺だ。何故人々はこれを許してゐるのか。

1. fumer. 2. le suicide.

(246) 葡萄酒一杯如何(1)。—有難う(2)、僕は一向のめません。

1. un verre de vin. 2. 答では、un verre de vin を繰返へさず代名詞を用ひよ。

(247) \*習ふよりも慣れよ。

\*『経験は學問を超越する』と言へばいい。

(248) 先刻(1)よくおわかりにならなかつた文章を、説明(2)して差上げませう。

1. tout à l'heure. 2. expliquer.

(249) この椅子を少し窓(1)に近付けて下さいませんか。

1. approcher A de B=A を B に近付ける。

(250) 庭の奥で見付けた鳥(1)の巢の中に、極く小さい鳥(2)がゐりました。

1. le nid. 2. tout.

(251) 男達は勇氣(1)が缺けてゐた。だから、女達(2)が男達に代つて勇氣を出さなければならなかつた。

1. manquer de. 2. pour eux.

(252) 私は自分の祖國から追放(1)されるやうなことを何かしたでせうか、と哀れな亡命者(2)は言つた。



1. bannir. (追放する。) 2. l'exilé.

(253) <sup>(1)</sup>商法に據れば、すべて商人は、<sup>(2)</sup>二冊以上の帳簿を<sup>(3)</sup>管理しておかなければならぬ。

1. le code de commerce. 2. des livres である。 3. être obligé de tenir.

(254) あなたは、御研究に際して、御自分の利益を<sup>(2)</sup>度外視し、<sup>(3)</sup>科學的真理のみを探求なさいましたね。

1. dans………を便とす。 2. sans s'occuper de. 3. ne chercher que.

(255) 算術には<sup>(1)</sup>四則あり。即ち加減乗除法である。

1. quatre opérations.

(256) 研究と反省は、青年の<sup>(1)</sup>將來に備へるための優れた手段である。

1. la préparation de l'avenir.

(257) <sup>(1)</sup>ガリレオと<sup>(2)</sup>ニュートンは俱に<sup>(3)</sup>自然科學の進歩に大いに貢献した。

1. Galilée et Newton. 2. les sciences physiques. 3. contribuer à.

(258) 彼の一生は唯、<sup>(1)</sup>間斷なき勞作、勤勞であつた。

1. continuel.

(259) <sup>(1)</sup>どんなに我々がゆつくり歩いても、彼は我々<sup>(2)</sup>について來る事は出來ない。

1. quelque……que. 2. suivre.

(260) <sup>(1)</sup>秋になりますと、色んな形をした、様々な色<sup>(2)</sup>合ひの菊の花が私達の庭を<sup>(3)</sup>飾ります。

1. en automne, (été, hiver.)=秋に、(夏に、冬に。) au printemps=春に。 2. le chrysanthème. 3. égayer.

(261) 私の叔父が佛國や英國から<sup>(1)</sup>戻つて來る時には、<sup>(2)</sup>あちらから様々な商品を澤山<sup>(3)</sup>持つて來ます。

1. venir de. 2. 代名詞を用ひよ。 3. rapporter.

(262) <sup>(1)</sup>本法は五月一日より<sup>(2)</sup><sup>(3)</sup>實施さる可し。



1. la présente loi. 2. à partir de (depuis, de, 等と比較研究すべし。) 3. entrer en vigueur.

(263) 大道で安賣<sup>(1)</sup>をしてゐる品物は怪しい。賊物<sup>(2)</sup>ではないにしても、商品の屑物<sup>(3)</sup>である。

1. vendre à bas prix. 2. sinon des larcins.  
3. le déchet.

(264) 古代ゲルマ<sup>(1)</sup>=民族は生れたての子を冷水<sup>(2)</sup>に浸<sup>(3)</sup>してゐたさうである。

1. les anciens Germains. 2. plonger. 3. on dit que……

(265) この最後の授業<sup>(1)</sup>の爲<sup>(2)</sup>に彼は晴着を着たのでした。

1. en l'honneur de (「爲に」といふ語だけなら pour でもいい。en l'honneur de にすると「……を重んじて」とか「を尊んで」とか「に敬意を表して」とかいふ意味が「爲に」の中に加はる。) 2. les habits de dimanches.

(266) 本校の學生の風儀<sup>(1)</sup>は、一段と改善<sup>(2)</sup>の餘地があるのである。

1. les mœurs. 2. laisser beaucoup à désirer  
といふ言ひ方もある。

(267) 一月もたゝぬうちに又變つた流行<sup>(1)</sup>になりませう<sup>(2)</sup>。

1. avant un mois d'ici. 2. avoir une mode nouvelle en vogue. この言ひ方によつて on を主語にする方が譯しい。

(268) ひよつとしてそれを壊<sup>(1)</sup>したら、持主にどんな<sup>(2)</sup>言譯をします。

1. abîmer. 2. l'excuse.

(269) 怠惰は多くの不幸<sup>(1)</sup>をお供としてつれて来る。

1. trainer après soi.

(270) あの男が<sup>(1)</sup>どんなに腕のよい職人でも、この仕事を今日のうちには、しとげられまい<sup>(3)</sup>。



1. quelque……que. 2. achever.

(271) 銀行家と一般資本家との討議は遂に折<sup>(1)</sup>合<sup>(2)</sup>が<sup>(3)</sup>つ<sup>(4)</sup>いた。

1. le banquier. 2. le capitaliste. 4. tomber d'accord.

(272) 私はカトリック信者<sup>(1)</sup>になりました。佛蘭西<sup>(3)</sup>の碩學 Pasteur は立派なカトリック信者です。

1. le catholique. 2. devenir.

(273) \*僕に、パンと肉と野菜を下さい。—こちらには上パンと白葡萄酒と新しい野菜が御座ります。

\*かういふ場合には、冠詞はすべて部分冠詞を用ひなければならぬ。

(274) 數年このかた、學生は、スキー<sup>(1)</sup>に熱中してゐる。そして、毎年山の犠牲者<sup>(2)</sup>が出る。

1. s'adonner à. 2. on signale……と譯するの一法。

(275) \*及第の見込九分九厘まで大丈夫。

\*『及第するために百に對して九十九の機會がある。』といふ言ひ方に譯すればいい。

(276) 動物は勿論、植物でさへ埃及の神様<sup>(1)</sup>として祭られてゐた。

1. être au nombre des divinités.

(277) 此等の人民は出来るだけ少く税<sup>(1)</sup>を拂ふこと<sup>(2)</sup>のみ腐心してゐる。

1. payer le moins d'impôts possible. 2. ne songer qu'à……

(278) 近々この高等學校の紀念祭<sup>(1)</sup>が舉行される。當日は、假裝行列の催し<sup>(2)</sup>ある由。

1. célébrer la fête. 2. le cortège travesti.

(279) 日支間の外交關係<sup>(1)</sup>は全く圓滿に維持されてゐる。<sup>(2)</sup>

1. les relations diplomatiques. 2. être satisfaisant.



(280) 彼は二十歳にして、北國の大都會新瀉の一新聞  
の主筆となつた。

1. à vingt ans. 2. le rédacteur en chef.

(281) 國を擧げて政府の抗議に加擔し、かかる局外中  
立侵害に對して、斷然今度こそ、有効な保證を與へら  
れんことを要求してゐる。

1. le pays entier, 2. la protestation. 3. se  
joindre à. 4. la violation de la neutralité.  
5. une fois pour toutes. 6. la garantie.

(282) 一國の形勢を一朝にして改革する事は六ヶ  
しい。

1. en un jour. 2. la réforme; réformer.

(283) 私の性格に變化が起りました。私は大人にな  
つた。私は本氣で將來を考へる。

1. se produire. 2. gravement.

(284) 彼の目的は南方派と北方派間の調停を果すこ  
とであつた。

1. les Nordistes et les Sudistes (北方派と南方  
派。) 2. effectuer la réconciliation.

\*  
(285) 彼は殆ど教育がなかつたので、散々失策をや  
つた。

\* 彼のもつてゐた le peu d'instruction が……と  
譯してもいい。 2. l'erreur (失策) tomber dans  
mille erreurs. (幾多の失策をなす。)

(286) 三年間已達が住んでゐた家を覚えてゐるかい、  
君。—彌生町の家か。—ウム、覚えてゐるかい。

1. habiter. 2. se souvenir de.

(287) 宮城前の廣場に於て新年の大觀兵式が行は  
れた。

1. l'esplanade. 2. la grande revue im-  
périale. 3. se faire.



(288) 私達は札幌に居た時、毎朝早く起きてポプラの並木道を散歩してゐた。

1. être à Sapporo. 2. tous les matins. 3. de bonne heure. 4. le boulevard de peupliers.

(289) 良薬は口に苦し。

1. être amer au goût.

(290) 資本家階級が利益を壟断してゐることを少しでも考へてみさへすれば、最近の労働運動はよく首肯される。

1. la classe bourgeoise. 2. les accaparements de bénéfice. 3. pour peu que. 4. concevoir を用ふるを便とす。

(291) 彼は今朝はあまり早く眼をさまさなかつた。大急ぎで食事をしてあたふたと出かけた。然し、間に合はなかつたのぢやないか知らん。

1. s'éveiller. 2. manger avec précipitation.

3. à la hâte. 4. arriver à temps (間に合ふ。)

(292) 毎晩、その哀れな妻は難船した夫が歸つて來るのが見えないかと思つて、海岸に惹きつけられて行つては、永い間じつと水平線の方に眼をやつてゐた。

1. chaque soir. 2. la pauvre femme. 3. le mari naufragé. 4. espérer voir…… 5. les yeux tournés vers l'horizon.

(293) 最近宮内省から照宮内親王殿下の御發育状態について發表があつた。

1. tout dernièrement. 2. le Ministère de la Maison Impériale. 3. S. A. I. la Princesse T…… 4. l'état de développement physique. 5. publier le bulletin.

(294) あの人はあなたの邪魔をする惧れがあるから、あなたの計畫はあの人に隠しておきなさい。

1. traverser. 2. de peur que. 3. le dessein.

(295) 私が自分の息子に立派な教育を興へてもらふ



のは、息子が幸福になる爲<sup>(2)</sup>です。

1. faire donner à mon fils…… 2. c'est pour  
……que とするがいい。

(296) 海軍當局は、この軍港に近付くことを禁じた。<sup>(1)</sup> <sup>(2)</sup> <sup>(3)</sup>

1. l'autorité maritime. 2. l'accès. 3. inter-  
dire.

(297) 地球の全表面に亘つて、一時間<sup>(1)</sup>に約三千の人  
々<sup>(2)</sup>が生れたり死んだりしてゐる。

1. environ. 2. naître et mourir.

(298) 寺の建方<sup>(1)</sup>は皆同じプランに據つてゐます。<sup>(2)</sup>

1. le temple bouddhiste. 2. être bâti d'après  
le même plan.

(299) 亞米利加の獨立戰爭中<sup>(1)</sup>、英國は獨逸の諸小國<sup>(2)</sup>  
に於て數箇聯隊<sup>(3)</sup>を買收せり。<sup>(4)</sup>

1. la guerre de l'Indépendance. 2. les petits  
Etats. 3. le régiment. 4. acheter.

(300) \* 彼の此世に在るや、常に人の尊敬<sup>(1)</sup>と愛慕とを  
受けぬ。

\*『彼は……の尊敬と愛慕とに償するやうな風に暮した。』と  
いふ風に譯してもいい。 1. l'estime et l'amitié.



第二部



\*  
(301) 古代より農業國なる日本は、今日も猶、その  
大部分は百姓で、人口の<sup>(1)</sup>六割を占めてゐる。

\* le Japon を主語にすれば、comprendre を用ひる  
のもいい。1. 60 pour cent.

(302) 歐州に於ける戦争が段々と稀<sup>(1)</sup>になつて行く<sup>(2)</sup>と  
考へられるかどうか、余は甚だ疑ふ。

1. se faire rare. 2. être permis d'espérer  
que……といふ言ひ方でもいい。

(303) 此の箇條を除<sup>(1)</sup>かなければ、彼はこの契約を承諾  
しまい。

1. à moins que de……

(304) 私は、今日<sup>(1)</sup>博物館に行けまいと思ふ。

1. le musée.

(305) 明日<sup>(1)</sup>わらつしやい。雨が降つてもお天気でも。

1. que (=bienque, quoique.)

(306) 明日私共の家へあの人<sup>(1)</sup>に來られるといけない



から、今晚私達は出発すると知らせておやりなさい。

1. de peur que. 2. avertir.

(307) 某君は去年試験に失敗してゐるのに、<sup>(1)</sup>また失敗されました。

1. et voilà que…… とするがいい。

(308) 若し人がもつと<sup>(1)</sup>良く貴方を知つてゐたら、もつと尊敬するのですがね。

1. si + (imparfait), (conditionnel présent) = 現在の否定を含む条件文。

(309) 諸君は仕事をする場合、到底<sup>(1)</sup>完成の域には到達しないだらうが、目標はそこに置かなければならない。<sup>(2)</sup>

1. 『完成の域』とあつても la perfection でいい。 2. viser.

(310) 寺に藏められてあつた寶物を兵隊が皆<sup>(1)</sup>掠奪して了つた。

1. piller.

(311) X 將軍の葬式の時には、<sup>(1)</sup>行列が長さ一キロメートル以上<sup>(2)</sup>にまでつづいてゐました。

1. le cortège funèbre. (葬送の行列。) 2. s'étendre sur でもいい。

(312) 人は自分や自分の家族の者の爲に働くばかりでなく、又自分の同類の爲にも働く。

1. 「自分の家族の者」は所有代名詞を用ふる方が簡単でいい。

(313) 君達の雇主と僕達のは親友だ。二人は<sup>(1)</sup>労働問題を討議するために屢々<sup>(2)</sup>相會してゐる。

1. la question ouvrière. 2. se réunir.

(314) 一寸お尋ねいたします、私は道がわからなくなつたんですが……九段はどちらに當りませうか、何卒お教へ下さい。

1. perdre le chemin.



(315) 夜外出をするなど貴方のお父様は、何度も何  
度も貴方に聲をからしておつしやるが駄目です。

1. se fatiguer inutilement de.

(316) 私は御姉妹に巴里でお目にかゝつたと思ひま  
す。

1. se souvenir de.

(317) 今夜叔母が貴方を一寸お訪ねするといふ事を申  
上げるのを忘れておました。

1. faire une petite visite.

(318) 私の出發前に之をして丁ふといふのなら、今日  
の午後外出するのを許して上げます。

1. à la condition que……

(319) 明日田舎へ行ける様に、今日貴方の宿題を皆し  
てお終ひなさい。

1. afin que.

(320) B さんが今日自宅で御面會なさるのをいやが  
つていらつしやると云ふ事だけ申上げて置ませう。

1. recevoir quelque'un chez soi. (自宅で或人に  
面會する。) 2. se borner à.

(321) 彼は、日本の成功は、總て之れ、日本兵の優れた  
精神のお蔭であると結論した。

1. c'est à……que le Japon doit……の形もいい。

(322) 理性によつて築きあげられた意志の力は、少し  
づつそして誰も氣のつかないうちに高められてゆく。

1. établir. (築く。) 2. sans que…… 3.  
s'élever.

(323) それはあんまりです、私をあんな目に會はせ  
ながら貴方はよくもかういふ事をしてくれと仰言られ  
たものですね。

1. c'est trop que……(それはあんまりです……よ  
くも……出来たものだ。) 2. jouer le coup à を用  
ひて、après le coup que vous m'avez joué.



としてもいい。 3. demander une telle faveur.

(324) 貴方の友達があの人に會ひに行かない中に、早く行つてお留めなさい。

1. avant que. 2. se dépêcher de.

(325) 歐州大戦争に於て我々の受けた不幸を繰り返へさない爲に、我々は國境の安全を圖らなければならぬ。

1. revivre les malheurs. 2. procurer des sécurités de frontières としてもいい。

(326) 當節では、現代語は商業に成功しようと思ふ者は何人も缺くべからざるものである。

1. la langue vivante. 2. quiconque veut réussir.....

(327) 貴方は先月の廿日に莫斯科にお着きになつたといふ返事が人から來ました。

1. plus-que-parfait を用ひよ。

\*  
(328) 田舎に居ります時は毎日仕事を終つておいてから海水浴をして居ました。

\* imparfait を用ひよ。

(329) 此の男を叱るのは止めましたが、その無禮な振舞は随分癪に障つた。

1. peu poli (un peu poli との異同に注意); impoli. 2. être vexé de.

(330) 此仕事をやつて、大して苦しまずに済んだのは、その友達の親切な助力のお蔭であると彼は一重に思つてゐた。

1. que si と書き出すのも面白い。 2. attribuer à ..... (...のおかげだと思ふ。)

(331) 我等の大使はその位置相當に、丁寧な待遇をうけた。

1. avec les honneurs dus à son rang.

(332) 大阪労働者代表の瀧、森田兩氏を迎へるため、



東京労働總同盟の主催で、昨日日比谷に於て大集會が  
開かれた。

1. le délégué ouvrier. 2. la confédération  
générale du travail. 3. le grand meeting.

(333) 皆があの人をこわがつてゐました。私も、皆の  
影響をうけました。ですから、あの人に話をする時に  
は必らず控え目に口を利いたものでした。

1. l'influence générale. 2. ne parler qu'  
avec des ménagements. の言ひ方もある。

(334) 日本兵士たるものは卑怯に其軍旗を見捨てな  
い。

1. 特種な言ひ方がある。

(335) 榛名湖は今日まで未だ嘗て凍つたことはなか  
つたが、今年本邦を襲ふた嚴寒のために、先週日曜か  
ら湖の大半は結氷してゐる。

1. régner à. 2. à cause du froid intense.  
3. prendre; geler; être pris (en glace).

(336) 二口三口嘔込むともうすぐに、彼は唸き、哀れ  
つぼい聲を出しはじめた。

1. à peine……, que…… 2. se prendre à;  
se mettre à; commencer à.

(337) 名門の子弟はその家柄にふさはしく振舞はな  
ければならぬ。

1. se montrer digne de.

(338) 多くの航海者は北極に達せんとしたけれど、駄  
目だつた。

1. le pôle nord; le pôle boréal. 2. vaine-  
ment.

(339) ネロは初め善君であつたが、終りには恐ろしい  
暴君になつた。

1. Néron. 2. le tyran.

(340) 多くの大學者は、極めて少しの事しか知らない  
と云ふ事を告白してゐる。



1. fort peu de chose.

(341) 私は、來年學校を出たら、大きな商館に<sup>(1)</sup>住み込みで<sup>(2)</sup>年期奉公に行きます。

1. terminer mes études を用ひてもいい。 2. au pair. 3. faire l'apprentissage.

(342) 折角<sup>(1)</sup> お出で下さいましたのに留守を致しまして、ほんとにお氣の毒でございました。

1. prendre la peine de (折角…する。) 2. être bien fâché.

(343) あなた達商賣人は、こうした事を私達と同じ様に見ません。

1. vous autres marchands.

(344) あたし、何か新しい小説がないかと思つて来てみたのよ。—どう言つたやうなのを御望みなんですか<sup>(1)</sup> お陽氣なところか、それとも固いやうなのですか。

1. trouver をひ用よ。 2. 此場合は entrer がいい。  
3. quel genre……? 4. quelque chose……?

(345) 中央銀行が、確固たる基礎に立脚せる<sup>(1)</sup>金融取引を爲し能はざる場合は、手段は最早唯一しかないであらう。

1. l'opération financière. 2. être en mesure de faire.

(346) 不正仲買人等は政府の所爲に憤慨したが、事情<sup>(1)</sup>をよく理解してゐる公衆は、概してこの所爲に賛意を<sup>(2)</sup>表してゐる。

1. le courtier malhonnête. 2. être indigné de. 3. la situation. 4. approuver.

(347) 吾人の第一の義務は人たる事なり。されど、我々の第二の義務は<sup>(1)</sup>公民たる事に存す。

1. le citoyen.

(348) 此の人は事の委細を知らない。だから、考へを<sup>(1)</sup>のべたくないのだ。



1. savoir de quoi il s'agit.

(349) 私の弟はよく勉強しません、もつと真剣<sup>(1)</sup>にならなくては、高等學校の入學試験にパスできますまいよ。

1. à moins que + ne + 接續法。

(350) 羅計盤<sup>(1)</sup>は決して海員によつて發明せられはしなかつたし、望遠鏡<sup>(3)</sup>も天文學者によつて發明せられはしなかつた。

1. la boussole. 2. inventer; trouver. 3. l'astronome.

(351) この事件に關しては、貴君自身話をしに來られた方がよい。あの人達は、我々が信賴する<sup>(2)</sup>に足る人物でない様な氣がする。

1. il vaut mieux que → 接續法。 2. digne de.

(352) 一國民が偉大に又強力になる爲には、よく訓練された軍隊や、大砲や、多くの船を持つてゐるだけでは足りないのだ。<sup>(3)</sup>

1. pour que → 接續法。 2. bien discipliné. 3. il ne suffit pas.

(353) 嘘を吐く習慣<sup>(1)</sup>が子供についてしまつたら、もうその習慣を矯正<sup>(3)</sup>なさることは出來ないでせう。

1. contracter l'habitude de…… = ……の癖がつく。 2. quand……; si vous attendez que…… 3. corriger.

(354) 美は善と真との輝き<sup>(1)</sup>いでたものに他ならないから、完全なる文明はこれを忽且<sup>(2)</sup>に附することは出來ないであらう。

1. l'éclat. 2. négliger.

(355) 言ふこと<sup>(1)</sup>や、考へることがよくとも、實行が良くなければ何にもならぬ。

1. 『云ふことがよい』を bien dire と譯し、不定法を主格に用ふるも一法。

(356) 彼等<sup>(1)</sup>は十歩も離れると、お互に姿が見えなくなる様な深い森の中に進んで行つた。<sup>(2)</sup>



1. à dix pas. 2. se voir = お互の姿を見る。

(357) 船が陸地に着く<sup>(1)</sup>や否や彼は飛び降りた。

1. aussitôt que; dès que; à peine……que.

(358) 總ての人間は死ぬ<sup>(1)</sup>ものである。最も大切な事<sup>(2)</sup>は善く死ぬ事であつて、永く生きる事ではない。

1. mourir; être mortel. 2. l'essentiel est de……

(359) 蒸氣機關や電信、是等各種の發明發見は、十九世紀<sup>(1)</sup>に至つて初めてされたものである。

1. ne dater que de……

(360) 書物の A 氏に於ける<sup>(1)</sup>、金の B 氏に於けると同じい。A 氏は大學者であり、B 氏は大實業家である。しかし、彼等は實に親しい。

1. A est à B ce que C est à D. =(A : B = D : C).

(361) 品は同じ物で色は別の<sup>(1)</sup>にして拵へて貰ひたい。

1. avec la même étoffe でいい。

(362) 諸勘定が私の手にはいつたら總入費<sup>(1)</sup>明細書<sup>(2)</sup>を上げませう。

1. les factures. 2. donner un compte exact.

(363) 矢野さんは、東京に來た頃には、二三の友達と一緒に、今にも潰れさうな家に寝泊りしてゐました。<sup>(1)</sup>

1. aller être démolé.

(364) 嵐は大木の成長にとつて悪いものではない。非常に立派なものが、實に苛酷<sup>(1)</sup>な時節<sup>(2)</sup>に創り出されることがある。

1. dur. 2. se créer.

(365) アメリコ・ヴェスプッチ<sup>(1)</sup>がかの新世界の發見をしたといふことが事實であるとしても、それは彼の譽れにはならないだらう。<sup>(2)</sup> <sup>(3)</sup>

1. Americo Vespucci. 2. quand を用ひてもい



い。3.『その譽れは彼にはないであらう』といふ風にす  
るのも一法。

(366) あなたが自己の過失を告白して、改悛<sup>(1)</sup>すること  
を約束されるまでは、私はあなたを許すことは出来  
ない。

1. faire l'aveu; avouer. 2. se corriger.

(367) 郵便は一日おきにしか出ませんが、女中に持た  
せてやりませう。

1. ここでは le courrier を用ひなければならぬ。 2.  
tous les deux jours. 3. ne……que.

(368) 帰宅の上、書類をしらべて、近日中に御返事を  
致しませう。

1. les écrits. 2. dans quelques jours.

(369) Aさんは、割合に早くこの羅典文がわかつた  
さうです。まして、貴君は直ぐおわかりになる筈です。

1. à plus forte raison.

(370) 汽車は定刻より十分早く出たものだから、私は  
<sup>(1)</sup>乗りおくれました。

1. manquer le train.

(371) 饑饉が三年間續いたので、人々は皆餓死するば  
かりだつた。

1. 分詞法を用ひよ。 2. mourir de faim.

(372) 大商店では、品物には一々確かな値段がついて  
<sup>(2)</sup>ゐて、値引はしない。

1. être marqué en chiffres connus. 2. faire  
une réduction.

\*  
(373) 彼は、自分の自働車に、妻君の名前を付けたと  
さ。—それは變だ。—少しも變ぢやないよ。あれを手  
<sup>(1)</sup>に入れてから操縦出来ないことを知つたのさ。

\* baptiser……du nom de…… 1. gouver-  
ner.

(374) <sup>(1)</sup>手あたり次第に本を讀んではいけません。友達



を選ぶ様に、読む本をお選びなさい。

1. lire des livres quelconques でもいい。

(375) 貴方のお話になつてゐるのを聞いて居ります<sup>(1)</sup>だけで、貴方が可成長い間佛國にゐるといふことがわかります。

1. rien qu'à.....を用ひよ。

(376) 私の子供が文科大學へ這入る時、將來は文部大臣<sup>(2)</sup>にならんと夢見てゐた。

1. rêver de devenir.....

(377) \* 櫻の花は、風が吹くか、雨でも降らうものなら、三日ともたない。だからこそ、この花が一番持てはやされるのだ。

\* pour peu que. を用ひよ。

(378) 手元には、文典が一部<sup>(1)</sup>しかございません。辭典<sup>(2)</sup>の方はまだ澤山持合せ<sup>(3)</sup>がございます。

1. il ne me reste que..... 2. quant à. 3. en avoir beaucoup.

(379) 最も兇暴な動物でも、吾々にとつて、恩<sup>(1)</sup>を忘れぬ鑑となります。

1. offrir des exemples de reconnaissance.

(380) 彼等は石を投げ合つた。が、唯、随分遠くからそれを投げ合つてゐただけだつた。だから、互<sup>(1)</sup>に傷め合ふことはなかつた。

1. se faire du mal.

(381) 雨が五日<sup>(1)</sup>降りつづいたので、女達は家に引籠<sup>(2)</sup>つてゐた。然し、女達が皆家に止まつてゐたので、男達だけが毎日町へ行つてゐた。

1. tomber の現在分詞を用ひてもいい。 2. la pluie を主語にすれば、retenir を使ふ言ひ方もある。 les femmes を主語にすれば rester を用ひるのも一法。

(382) 目が眩<sup>(1)</sup>らまずには見てゐられない程、よく<sup>(2)</sup>



光る。

1. éblouir (眩ります。) 2. ……tant que……

(383) 道が悪くつて最早一足<sup>(1)</sup>も行かれなかつた。

1. faire un pas.

(384) 彼は、數年前に財産の一部を失つたが、其れを<sup>(1)</sup>恢復した。

1. recouvrer.

(385) あの人は私に何時<sup>(1)</sup>だか尋ねた。で、教へてやつたら、七時前には斷じて起きないと言ひ放つた。

1. 特殊な言ひ方がある。 2. déclarer.

(386) Dorat は Du Bellay にかう言つた、「祖國の言葉の爲に戦ふより大なる名譽<sup>(1)</sup>はなし」と。

1. il n'y a pas de plus grand honneur que ……

(387) 彼等<sup>(1)</sup>がどんなに學者でも、まだ知らない事が澤山あります。

1. quelque…… que……

(388) \*私が居たので、あの人は一層大膽になつたらし<sup>(1)</sup>かつた。が、どんなに大膽になつたとしても、やはり正直な人間であつた。

\*「私の居ることが、彼の<sup>(1)</sup>大膽さを凌つたらしかつた」と譯するの一法。 1. tout de même.

(389) 「福音書」より「民約論」<sup>(1)</sup>に至るまで、革命<sup>(2)</sup>を惹き起したのは書籍である。

1. le Contrat social. 2. faire les révolutions.

(390) 君の兄様は僕の兄よりも二つ<sup>(1)</sup>だけ年上だ。

1. de deux ans.

(391) 我々は佛蘭西大使<sup>(1)</sup>に會へるものと思つてゐた。が、我々の到着する前に彼は新任地<sup>(2)</sup>に出發してしまつてゐた。

1. l'ambassadeur français. 2. le nouveau poste. (cf. la poste).



光る。

1. éblouir (眩ります。) 2. ……tant que……

(383) 道が悪くつて最早<sup>(1)</sup>一足も行かれなかつた。

1. faire un pas.

(384) 彼は、數年前に財産の一部を失つたが、其れを<sup>(1)</sup>恢復した。

1. recouvrer.

(385) あの人は私に何時だか尋ねた。で、教へてやつたら、七時前には斷じて起きないと言ひ放つた。<sup>(2)</sup>

1. 特殊な言ひ方がある。 2. déclarer.

(386) Dorat は Du Bellay にかう言つた、「祖國の言葉の爲に戦ふより大なる名譽はなし」と。<sup>(1)</sup>

1. il n'y a pas de plus grand honneur que ……

(387) 彼等が<sup>(1)</sup>どんなに學者でも、まだ知らない事が澤山あります。

1. quelque…… que……

(388) \*私が居たので、あの人は一層大膽になつたらしかつた。が、どんなに大膽になつたとしても、やはり<sup>(1)</sup>正直な人間であつた。

\*「私の居ることが、彼の大胆さを唆つたらしかつた」と譯するの一法。 1. tout de même.

(389) 「福音書」より「民約論」に至るまで、<sup>(1)</sup>革命を惹き起したのは書籍である。<sup>(2)</sup>

1. le Contrat social. 2. faire les révolutions.

(390) 君の兄様は僕の兄よりも二つだけ年上だ。<sup>(1)</sup>

1. de deux ans.

(391) 我々は佛蘭西大使に會へるものと思つてゐた。<sup>(1)</sup>が、我々の到着する前に彼は新任地に出發してしまつてゐた。<sup>(2)</sup>

1. l'ambassadeur français. 2. le nouveau poste. (cf. la poste).



(392) 神は人間に大砲も銃劍も與へはしなかつたが、  
人間は自滅する(2)ために、自ら大砲や銃劍を作つたので  
ある。

1. la baïonette. 2. se détruire.

(393) 虫のつかない(1)果物、青蟲のつかない(2)花、苦痛の  
ない快樂、そんなものはひとつもない。

1. 「自分の虫を有たぬ果物」と譯してもいい。

(394) 學者達と一寸でも(1)交際(2)したら、人は彼等が人間  
のうちで最も好奇心の少い(3)ことに氣が附くだらう。

1. pour peu que. 2. pratiquer quelqu'un.  
(或人と交際する。) 3. s'apercevoir.

(395) あの人達が新聞を讀んだり手紙を書いたりし  
てゐる間に(1)時間が(2)経つて、出發の時刻は近づいて來た。

1. tandis que. 2. s'écrouler.

(396) この人の本を讀む學生は、殆んど例外なく(1)社會  
主義者か無政府主義になる(2)。

1. le socialiste. 2. l'anarchiste.

(397) \* 諸民族の文學は、寓話によつて始まり小説によ  
つて終る。

\* commencer par……finir par……

(398) 過去の愛惜と現在の悲嘆と未來への不安とは  
人類を最も惱ます(1)(2)厄介事である。

1. affliger. 2. le fléau.

(399) 全く弱つた事件が(1)起りました。先月の火事で  
私は全財産を失つて了つたのです。

1. arriver を非人稱に用ひよ。

(400) 彼の眼差しの中には何か(1)狼狽した様な、不安氣  
な物があつた。

1. quelque chose de + 男性單數形容詞。

(401) 「若しも」とか「蓋し」とか「何故なら」と



かいふ言葉は、この世に口論の<sup>(1)</sup>はいつて来た門戸である。

1. la porte par où la noise.....

(402) この室にゐた者が皆、笑はずには居られなかつた<sup>(2)</sup>といふ事は、云ふだけ野暮である。

1. ne pouvoir s'empêcher de rire. 2. il est superflu de dire que.....

(403) 佛蘭西語を自由に驅使するには、本の中にあるやうな或は演説や説教で聞くやうな文學語を知つてゐるだけでは足りない。

1. être maître de.....=.....を自由に驅使する。  
2. il ne suffit pas de savoir.....

(404) 昨日私は家に、うんと用事があつたのだが、外出して一日外に居た。

1. mille. 2. demeurer dehors.

(405) 目配せをした所を友達に見付けられて了つた。

1. mon œillade. 2. être surpris au passage.

(406) 最も長く生きた人間とは、最も多く<sup>(2)</sup>齡ひを重ねた人々ではなく、最も強く人生を感じた人々である。

1. le plus. 2. compter des années.

(407) この二人の學生は全く違つた性格を持つてゐる。こつちの方は勉強家だが、あつちの方は怠け者だ。

1. tout. (副詞として用ひられる tout につきて研究せよ。)

(408) 巴里には、あらゆる大都市の様に、金物屋があつて、そこでは釘とか、鐵、銅、錫、鋼鐵等の様々な器具を賣つてゐる。

1. la quincaillerie.

(409) 今年は、昨年程いい輸出状態じかないといふ話を聞いた。

1. l'exportation. 2. entendre dire que.



(410) \* 田舎に居た頃、私は毎朝五時に起きてゐた。そして、毎日長い散歩をし、夜はいつも九時に床に就いてゐた。

\* imparfait を用ひなければならぬ。

(411) <sup>(1)</sup> 勘定書同封の本商品は貴下に御満足と與へることと信じております。  
<sup>(2)</sup>

1. la facture ci-incluse. (同封の勘定書。) 2. nous avons confiance que……

(412) \* 昨日は天気ではあつたし、休日でもあつたから、汽車の乗客は大變多かつた。

\* comme……et que……

(413) 我々は我々の理性の命令に従つて行くだけの力がない。<sup>(1)</sup>

1. assez de.

(414) すべての<sup>(1)</sup>三角形に於て、何れかの<sup>(2)</sup>一邊は他の二邊の和よりも少にして、その差よりも大なり。

1. le triangle. 2. le côté.

(415) お前方の兩親達は、お前達が學問のある人になるのを、<sup>(1)</sup>見度いものだとは、さして思つてゐなかつた。

1. tenir à voir……=……を見たいと思ふ。

(416) 研學を始めることは、たとへ青年時代が過ぎて<sup>(1)</sup>からでも、決して遅すぎない。

1. même lorsque……

(417) 貴方が S さんの様にお働きな<sup>(1)</sup>さつても、あの方の様に何百萬とお儲けになるやうな事は決してありませんまい。<sup>(2)</sup>

1. 條件法を用ひ、倒置法による言ひ方もある。 2. vous n'arriverez jamais à……

(418) この部室がよく暖たまつてゐないのは、貴方が戸を閉めるのをお忘れになつたからでせう。<sup>(1)</sup><sup>(2)</sup>

1. être bien chauffé. 2. si (ce que)……c'est que=……であるのは……であるからだ。



(419) あの男が貴方に<sup>(1)</sup>會ひに来ないと頑張つてゐる<sup>(2)</sup>間は、手紙をおやりなさるな。

1. s'opposer à venir trouver. 2. aussi longtemps que.

(420) あの人は貴方が自働車をお貸しに<sup>(1)</sup>なれば、御一緒に明日やつて来るでせう。

1. à condition que.

(421) 嫉妬深い人間には、最早や理性もなく、精神もなく、<sup>(1)</sup>真心もない。狂人であり、病人であり、悪人である。

1. le cœur でいい。否定文であるから、冠詞の用法に注意を要する。

(422) あの人がKさんの様にヴァイオリンが弾ける<sup>(1)</sup>のなら、お手並を拜見させてもらいたいものだ。

1. vouloir bien voir.

(423) どうにもならないのに、<sup>(1)</sup>何だつてあの人は、<sup>(2)</sup>あんな危ないことをしに行くのでせう。

1. vu que……とする言ひ方もいい。 2. qu'irait-il faire dans cette galère? (cf. Molière)

\* <sup>(1)</sup>  
(424) 貴方が此窓を開けたまゝにしてお置きにならなかつたら、私の齒も痛まなかつたのでしたのに。

\* si (plus-que-parfait), (conditionnel passé).  
1. laisser ouvert.

\* <sup>(1)</sup>  
(425) 若しあの男が今日貴方に、此所でお會ひ出来ると思つたら、確かに来たのですがね。

\* 時の關係に注意せよ。 1. penser quelqu'un trouver. (或人に會へると思ふ。)

(426) 彼の懸念を<sup>(1)</sup>唆れ、然らば汝等は彼の愛を<sup>(2)</sup>募らしめん。彼をして戦慄せしめよ、然らば彼は汝等を熱愛せん。

1. exciter. 2. accroître.

(427) <sup>(1)</sup>二時間も余裕がありながら、何故あの人は<sup>(2)</sup>間に合ふ様に來ないのでせう。



1. avoir deux heures devant lui. 2. à temps.

(428) あの人が来ない内は、<sup>(1)</sup>此問題を解決する事は出来な  
いでせう。

1. tant que……の言ひ方を用ひるがいい。

(429) 射撃演習中、<sup>(1)</sup>一門の砲、<sup>(2)</sup>破烈し、二名の兵卒重  
傷を負ひ、直ちに<sup>(3)</sup>衛戍病院に送られたり。

1. les exercices de tir. 2. au cours de; pendant. 3. l'hôpital militaire.

(430) 現在の<sup>(1)</sup>気温は非常に酷烈ではあるが、農産物に  
は決して<sup>(2)</sup>害はない。

1. la température. 2. nuire.

(431) 私は A 氏が、自分の有つてゐるだけの金を、  
B 氏に贈りはしないかと<sup>(1)</sup>心配してゐます。

1. avoir peur que……ne (subjonctif); crain-  
dre que……ne (subjonctif).

(432) 病氣だつたといふ口實<sup>(1)</sup>を使つて、あの人は私共  
の所へ来ませんでした。

1. sous prétexte que.

(433) 試験に落第したので、あの人は職を探しに、<sup>(1)</sup>奔  
走しなければならなかつた。

\* voici que……の言ひ方を用ひてもいい。 1. par-  
courir.

(434) 古代希臘文明は、現代のそれよりも<sup>(1)</sup>進歩してゐ  
たか?

1. avancé.

(435) 秘密といふものは、<sup>(1)</sup>大變神聖な性質を有つてゐ  
る。だから、アジアの原始人は、<sup>(2)</sup>象徴でしか物を云な  
かつた位である。

1. être d'une nature si divine, que…… 2.  
le symbole.

(436) あの男は、自分に近づく人を<sup>(1)</sup>誰でもかまわず



に、じつと見つめてみた。<sup>(2)</sup>これは、狂者に、よく見<sup>(3)</sup>う  
けられることである。

1. n'importe qui. 2. ce qui……… 3. con-  
stater. (見うける。)

(437) <sup>(1)</sup>失禮ながら、君のおつしやる事はちと<sup>(2)</sup>淺薄な御  
議論と存じます。

1. excusez-moi. 2. 「ちと………と存じます」は、  
avoir l'air de を用ひてもいい。

(438) <sup>(1)</sup>潮のひいたのを<sup>(2)</sup>幸と、向ふの島へ渡つた。

1. la marée basse. (干潮。) 2. profiter de を用  
ふるを便とす。

(439) 此の事業に<sup>(1)</sup>身を投じて、あの人は全財産を失<sup>(2)</sup>ふ  
破目になつてゐる。

1. s'élaner. 2. s'exposer à perdre.

(440) 人の云ふ事にあまり<sup>(1)</sup>頓着なさるな。

1. prêter attention à.

(441) 仕入れが高いから、安<sup>(1)</sup>く賣れない。

1. vendre bon marché.

(442) <sup>(1)</sup>前日午後六時三十分、神戸を發した東京行急行  
は、大<sup>(2)</sup>遅延をなし、昨朝十時米原着、同地に於て立往  
生をした。

1. la veille. 2. arriver avec un retard. (延  
着する。)

(443) <sup>(1)</sup>西曆紀元前四五世紀に、文明諸國を<sup>(2)</sup>壊滅に瀕  
せしめた、蕃民の侵入があつた。

1. avant Jésus Christ. 2. faillir anéantir.  
(faillir + 不定法 = être sur le point de……)

(444) 青年等はその快樂に於て、熱<sup>(1)</sup>狂し飽<sup>(2)</sup>くことを  
知らないし、老人等は、その貪<sup>(3)</sup>慾に於て、矯正すべか  
らざるものである。

1. fougoux. 2. insatiable. 3. incorrigible.

(445) 校庭に<sup>(1)</sup>面してゐる僕等の教室は、陽が<sup>(2)</sup>よく入



る。先生は講義中時々窓の方をみる。

1. donner sur…… 2. recevoir en plein. …

と譯してもいい。

(446) 品物の代より運賃の入費の方が余程かゝります。

1. les frais de port. 2. coûter.

(447) 不幸な人には、一片のパン或は一枚の金貨を與へるだけでは足りない。同時に、己の心を少し許り與へなければならぬ。

1. un peu de son cœur.

(448) この世の實は儂いものである。我々は人生の事相を経験すればする程、益々その感を深うする。

1. fragile. 2. être convaincu de …… (……を痛感する。) を用ひるも一法。

(449) はてな、急に空が曇つて來た。この雲行ぢや明日は多分雪だらう。

1. se couvrir. 2. la marche des nuages.

(450) 商業の發展を翼成すべき條件の一は、交通機關の發達にある。

1. favoriser. 2. les moyens de communication. 3. résider dans……といふ言ひ方もある。

(451) 近頃尾崎氏は、有名なる避暑地、輕井澤にゐる。氏の妻君、テオドラ夫人と、瀟洒な別荘に住つてゐる。

1. actuellement がいい。2. villégiaturer. といふ動詞もある。

(452) あの方は、妻君を鄭重には取扱はなかつたが失敬な事をする氣があつたのじやあるまい。

1. je ne crois pas que →subjontif.

(453) 多くの人々は、前半生を無爲にすごし、後半生をみじめな物にしてすふ。(多くの人々は、後半生をみじめな物にしてすふ様な、前半生を送る。)

1. employer を用ひてもいい。2. rendre quelque chose misérable.



(454) 彼は相變らず貧しいながら幸福な生活を送つてゐたが、思ひがけない事件がおこつたのである。

1. mener une vie. 2. inattendu. 3. arriver.

(455) 世の中には己の傲慢を非難されるのを好まない程傲慢な人がある。

1. si……que.

(456) 吾々の生活してゐる時代に一番近接してゐる時世の歴史を現代史と呼ぶ。

1. le plus rapproché de.

(457) あの人達は、雞の卵がひとりでに煮える様にするために、自分の隣人の家に火をつける奴みたいなものだ。

1. se faire cuire à soi-même…… (……をひとりでに煮させる。) 2. être semblable à.

(458) エジプトは、人間に、運河を作り、その水を利用して國土を肥沃ならしめる事を教へたのである。

1. se servir de. 2. fertiliser. 3. apprendre à + infinitif. (……することを教へる。) (apprendre le français の apprendre と比較研究せよ。)

(459) 出發前に御約束いたしました通り、あなたの債權者にお目にかかりませう。(御約束いたしました通り、出發前にあなたの債權者にお目にかかりませう。)

1. le créancier. \* 前と同じ譯文で、唯、virgule の置き方を變ればいいやうな譯し方もある。

(460) 今朝の新聞によりますと、船客の大部分は難船から救はれたさうです。

1. d'après. 2. la majorité.

(481) 羅馬建設史は昔噺を繼ぎ合せたものにすぎないといふことは、今日では誰でも知つてゐる。

1. le tissu de légendes.

(462) 貴方が近く「近世科學の進歩」についての二度目の論文を發表なさる事を私は期待してゐます。

1. attendre de quelqu'un que……



(463) こんどの日曜には、皆が君の家に来て一緒に御飯を食べてあそぶといふのに、何を<sup>(1)</sup>そう愚<sup>(2)</sup>圖るのです。

1. 適切な疑問代名詞を用ひよ。 2. se plaindre de.

(644) 仕合せに<sup>(1)</sup>巡査が<sup>(2)</sup>通り合せたので、彼は盗難を免かれた。

1. passer par hasard (par hasard と au hasard との異同に注意。) 2. voler (盗む。)

(465) 死んでみなければ<sup>(1)</sup>來世<sup>(2)</sup>があるかどうか分らない等と云ふのは<sup>(3)</sup>うそだ。

1. une autre vie. 2. si. 3. c'est faux……

(467) 私は少尉に<sup>(1)</sup>昇進し、同時に近衛第一聯隊附となつた。

1. promouvoir (昇進させる。)

(468) かういふ事を申上げて置かねばなりません、最愛の妻を失つて以來、B氏の日常の行爲に<sup>(1)</sup>奇妙な變化<sup>(2)</sup>が起つてゐたのです。

1. le singulier changement. 2. s'opérer.

(469) 昨晚巢鴨に大火が<sup>(1)</sup>あつた。火は<sup>(2)</sup>悪い奴等がつけたものらしい。

1. il y a; éclater. 2. le malfaiteur.

(470) 政府で近々<sup>(1)</sup>新聞條例を改革するだらう。

1. la loi de la presse.

(471) 先日 お貸し申したお金は今日がお返濟の<sup>(1)</sup>期日で御座ります。

1. le jour fixé……

(472) 政府與黨の少數なのを見て、反對黨の連中は<sup>(1)</sup>一層傲慢<sup>(2)</sup>な態度を示した。<sup>(3)</sup>

1. le parti gouvernemental. 2. 現在分詞を用ふるを便とす。 3. se montrer……

(473) 所々に<sup>(1)</sup>步哨や、<sup>(2)</sup>外套の頭巾をかぶつて<sup>(3)</sup>双眼鏡で彼方を眺めてゐる士官達が居た。



1. de loin en loin; ça et là. 2. encapuchonné. 3. les lorgnettes.

(474) 彼の歿後、義弟政權を<sup>(1)</sup>掌握せり。されど幾庶もなくして、これを<sup>(2)</sup>放棄するの止むなきに至れり。

1. les rênes du gouvernement. 2. abandonner.

(475) 彼等の宗教は漁夫の住む茅屋の下に<sup>(1)</sup>生れ、迫害の中にあつて<sup>(2)</sup>弘められた。

1. la persécution. 2. se propager.

(476) 八月十日、二十歳になる女が姉と喧嘩して、<sup>(1)</sup>奮激の餘り家を飛出し、鎌倉附近の海に<sup>(2)</sup>身投げした。

1. dans l'accès de rage. 2. se jeter.

(477) 臺灣製糖會社は<sup>(1)</sup>年々五百萬圓の補助金を政府より受く。

1. la subvention annuelle. (毎年の補助。)

(478) 大戦争の爲に爲替取引が<sup>(1)</sup>全然覆へされたので、<sup>(2)</sup>相場は、或る二三の場合に於て、全く異常な<sup>(3)</sup>變調を來<sup>(4)</sup>した。

1. le commerce des changes. 2. bouleverser de fond en comble. 3. le cours. 4. la variation.

(479) ヴェルダン方面に於て、佛軍の一<sup>(1)</sup>單葉飛行機は<sup>(2)</sup>機關銃を以て獨軍の飛行機二臺を射落せり。

1. la région. 2. le monoplane. 3. battre à coups de mitrailleuse; abattre.

(480) 政府の方針に<sup>(1)</sup>悖らない場合は、立法者はその國民の精神を<sup>(2)</sup>遵奉しなければならぬ。

1. contraire à……=……に悖る。 2. c'est au législateur à suivre……とする言ひ方もある。

(481) 昔の或る賢者は、<sup>(1)</sup>道德家の座右の銘は、與へることゝ恕すことの二語の中にある、といふことを立證



した。彼は又、睿智は雄辯よりも尙一層の価値がある  
といふ結論を下した。

1. la devise. 2. valoir mieux. 3. conclure.

(482) 野心と愛情とは最も事理に明かな人をも多少  
盲目にするものである。

1. donner un certain aveuglement à.

(483) 一國の軍備は、その國の政治状態と地理的位置  
とを基準として制限又は縮少すべきものである。

1. l'armement. 2. en s'appuyant sur la  
considération de. 3. réduire. (縮少する。)

(484) 昨日午前八時、我々は横須賀に出掛けた。列車  
は約一時間半で向ふへ着いた。(我々を連れて行つた。)  
だから、其處で午後を過すことが出来た。午後五時乗  
船して、暗くなる前に横濱に歸つて來た。

1. conduire. 2. prendre le bateau. 3. avant  
la nuit.

(485) 島崎藤村は巴里に二三年ゐた。日本に歸つ  
てから、東京朝日新聞に「新生」といふ私小説を發表  
した。

1. vivre à でいい。 2. le roman autobiogra-  
phique; son roman vécu.

(486) 干渉事項に對する日本の最後の決定は、内閣變  
動の解決するまで延期される。

1. en ce qui concerne une intervention. 2.  
la crise ministérielle. 3. être différé.

(487) 露紙の報ずる所によれば、ペトログラアドの人  
口は、有害な食物に起因せる流行病の爲に、減少しつ  
つある由。

1. d'après; dire que…… 2. la mauvaise  
nourriture. 3. les épidémies. 4. être en  
train de.

(488) 自然科学は、十九世紀に於て、それ以前の各世  
紀に於けるよりも、一層の進歩を遂げた。



1. la science naturelle; la science physique.
2. plus-que-parfait を用ひよ。 3. faire des progrès.

(489) 彼が、自然を楽しむため、中野の別荘に<sup>(1)</sup>引退してからは、訪問客を<sup>(2)</sup>さけてゐる。まして、政談に於ておやである。

1. se retirer. 2. davantage encore.

(490) <sup>(1)</sup>国際聯盟總會は、原則として定期に開催し、尙<sup>(2)</sup>ほ必要ある場合は<sup>(3)</sup>隨時之を開く。

1. l'Assemblée générale de la Société des Nations. 2. si les circonstances le demandent. 3. à tout autre moment. 行文の如何によつては<sup>(2)</sup><sup>(3)</sup>の註は用ひられない。

(491) 小さな机のまわりには、雑誌や着物が<sup>(1)</sup>散ばつてゐる。そして、<sup>(2)</sup>屏風の後には、炭取籠と小さな<sup>(3)</sup>火鉢が見えて居た。

1. trainer. 2. le paravent. 3. le brasero.

(492) 米があれば<sup>(1)</sup>腹は減らない。腹が一杯だつたら<sup>(2)</sup><sup>(3)</sup>天下泰平だ、政府と<sup>(4)</sup>被治者の間も、資本家と労働者の間も。

1. avoir faim. 2. satisfait を用ひてもいい。 3. la paix règne…… 4. l'administré.

(493) 「苦樂」は、日本に於ける最も通俗な雑誌である。老若男女等しくこれを<sup>(1)</sup>読み、發行部數の最も多い雑誌である。

1. le tirage.

(494) 水は<sup>(1)</sup>器にしたがひ、人は<sup>(2)</sup>友によるものだ。

1. prendre la forme de vase. 2. ressembler à.

(495) <sup>(1)</sup>エルサレムがローマ人の手で<sup>(2)</sup>荒廢に歸せしめられると、ユダヤ人は全世界へ分散してしまつた。

1. Jérusalem. 2. être détruit を用ひてもいい。

(496) 北風に<sup>(1)</sup>煽られて、火は<sup>(2)</sup>瞬く間に南へ擴つた。



1. activé. 2. en un clin d'œil.

(497) 輿論は民衆の聲であつて、畢竟これは神の聲に  
他ならない。

1. l'opinion publique.

(498) 私の叔父は巴里大使官附武官に任命せられた。  
出発は来る八日と定つた。

1. l'attaché militaire à l'ambassade (japo-  
naise) à Paris. 2. le huit courant.

(499) 意地悪さや、横着さが、大文字で顔の上を書いてある人がゐます。

1. la friponnerie. 2. en gros caractères.

(500) 來春は、日本の海外貿易は大いに好況に向ふだ  
らうが、相場は突然而かも頻々と低落に逢ふだらう。

1. être dans l'état prospère. 2. le prix de  
marché. 3. la baisse.

## 第 三 部



(501) 陸奥宗光は千八百七十一年洋行した。日本に  
歸つて後、當時の<sup>(1)</sup>先達者となり、幾多の重要な<sup>(2)</sup>改革を  
行つた。我國に於いて偉人が輩出し始めたのはその時<sup>(3)</sup>  
代である。

1. le précurseur. 2. la réforme. 3. ce fut  
à cet époque où.....

(502) <sup>(1)</sup>國民外國語研究協會では、商工業に<sup>(2)</sup>携はり一外  
國語の研究に完成を望む青年のために、新たに<sup>(3)</sup>補充留  
學給費六名の<sup>(4)</sup>任命が決定せられた。

1. l'Association Nationale pour l'étude des  
langues. 2. se destiner à を用ひてもいい。3.  
la bourse complémentaire. (補充給費。) 4. 此場  
合は l'attribution でいい。

(503) Louis-Philippe の政府の失墜の原因は、正しく  
<sup>(1)</sup>選舉組織の不正なりしによる。政府の選舉組織は、少  
數の<sup>(2)</sup>特權階級の國民にのみ<sup>(3)</sup>投票權を與へて佛國民の最  
大多數に、それを拒みたるなり。

1. le système électoral. 2. des citoyens



privilégiés. 3. le droit de vote.

(504) 伊太利が佛領であつた頃、その國の或る町に屯營してゐた聯隊の一つに反亂が勃發した。それは重大事件だつた。兵卒の暴動以上だつたからである。皇帝はこの報を知つた時、怒心頭に發したやうに見えた。

1. être en garnison. 2. la sédition. 3. la mutinerie de soldats.

(505) 不幸にも、震災後、學校及び簡易圖書館は、未だ空である。該協會は、これ等の圖書館の再興に努めてゐる。

1. la catastrophe sismique. 2. prendre à tâche de……

(506) Louis-Philippe の退位後、革命黨員は假政府を組織せり。假政府は普通選舉法を設けたり。普通選舉法とは即ち二十一才に達したる全佛國民に代議士選出權を與ふるものなり。

1. l'abdication. 2. les insurgés. 3. gou-

vernement provisoire. 4. établir le suffrage universel. 5. le droit d'élire les députés.

(507) 人間の意志は變る、が、この世で變らないものは何か。國民は何等永遠なものではない。それは始めがあつた以上、やがて終りがあるだらう。然し、現在の種々の國民の存在することは、いいことであり、必要なことでさへある。

1. 2. commencer, finir の動詞を用ひてもいい。3. à l'heure présente; de nos jours.

(508) X 氏は通俗衛生聯盟に於て「健康、快活、即ち成功の秘訣」と云ふ演題で、一場の講演をこゝろみた。彼によると、成功の最も確實なる道は、快活であるといふ。

1. la ligue populaire d'hygiène. 2. faire une conférence sur……

(509) 休戰條約締結後、ラ・コミューヌの暴動が巴黎で勃發した(1871年三月)。暴動は、1871年五月に鎮壓された。



1. l'armistice. 2. l'insurrection de la Commune. 3. réprimer.

(510) <sup>(1)</sup>本月五日に差上げました回状以後、<sup>(2)</sup>本店には千<sup>(3)</sup>葉縣から各種穀類の船荷が多数入荷いたしました。

1. depuis notre circulaire du 5 courant. 2. des cargaisons de grains de toute espèce. 3. 商業語では、nous avons eu ici de nombreux arrivages……apportant (avec)……さいふ言ふ言ひ方も用ひられる。

(511) <sup>(1)</sup>修繕の爲掘返してゐる車道に、<sup>(2)</sup>通行人は少しも<sup>(3)</sup>注意しない程見馴れてはゐるものの、<sup>(4)</sup>しかも興味がなく<sup>(5)</sup>もない光景を、毎日見ることが出来る。職工は、<sup>(6)</sup>舊の<sup>(7)</sup>マカダン式道路を破壊するために、二人づつ組んで働いてゐる。一人が長い<sup>(8)</sup>鐵の鶴嘴の先端を、<sup>(9)</sup>砕く塊の上に<sup>(10)</sup>支へると、もう一人が<sup>(11)</sup>鍛冶屋の大きな金槌でもつて、<sup>(12)</sup>鶴嘴の頭をさつと打ち下ろす。若しも金槌を持った人が打ち損じたならば、<sup>(12)</sup>對手の手を<sup>(11)</sup>べちやんこにして仕舞ふだらう。勿論<sup>(12)</sup>脇つちよを叩く様なことはない。然し、

<sup>(13)</sup>最も賞讃に價するものは、<sup>(14)</sup>實にびくともしないで鶴嘴を持つてゐる職工である。

1. les chaussées qu'on défonce…… 2. tellement を用ひるも一法。 3. manquer d'intérêt (興味がない。) 4. l'ancien macadam. 5. se mettre par couple. 6. le pic de fer. 7. les blocs à briser. 8. le marteau de forgeron. 9. à toute volée. 10. manquer son coup. 11. écraser; mettre en marmelade; écrabouiller. 12. taper à côté. 13. mériter l'admiration. 14. sans sourciller.

(512) 自然は、地上の總ての人々、即ち貧者も富者も、<sup>(1)</sup>野蠻人も文明人も、白人も黒人も、皆お互ひに恩恵を施し會つて睦み合ふことを望んでゐるのだ。

1. barbares ou civilisés. 2. lier par une réciprocité de bienfaits……とする譯し方もある。

(513) 動物が、<sup>(1)</sup>極く僅かの程度でも反省力を<sup>(2)</sup>恵まれてゐたならば、<sup>(3)</sup>何等かの進歩をも爲し得るであらうし、<sup>(4)</sup>一層の巧智を獲たであらう。



1. même au plus petit degré.
2. être doué.
3. quelque espèce de progrès.
4. l'industrie.

(514) 多くの夫婦の生活といふものは、鐵道線路のやうなもので、決して會ふこともなければ又離れることもない。私は夫の喜びや悲しみに興りたいと思つた。私は何時も女中として使はれてゐた。

1. être pareil à. 等等。
2. participer à.
3. être traité を用ひてもいい。

(515) カルタゴがローマとの戦ひで一敗地にまみれたので、ローマの軍隊の進歩を阻止するに足る強い國民がなくなつて了つた。

1. Carthage.
2. succomber.

(516) 須田町の停留場で女學生が乗つた。皆、袴をはいてゐる。膝には、本の風呂敷包を持つてゐる。先生が入つて來たら、競争して、席を先生にゆづらうとしてゐる。「先生こちらへ」「いえ先生、私の側に來て下さい」とうるさくせがむ聲がした。

1. l'arrêt.
2. c'est à qui réussira à lui faire prendre sa place. 少し難しい譯では、かういふ言ひ方もある。
3. implorer.

(517) 汽車は隧道にはいる。暑さは増し、呼吸は苦しくなる。閉ぢこめられた煙が、窓玻璃に乳色の湯氣をつける。光が再び現はれて來ると、ほつとひと息。と、忽ち汽車は生氣を盛りかへしたやうに見える。道が前よりも水平になつたからである。戸塚につく。ついで八分の後、大船到着。

1. devenir pénible.
2. coller aux vitres une buée laiteuse.
3. c'est un soulagement quand.....と譯すればいい。
4. reprendre de la vigueur.

(518) 佛蘭西人の技師の設計になる新式機關車は、日本電機製造會社濱松工場で、全部組み立てられた。

1. la locomotive.
2. la compagnie des constructions électriques du Japon. (日本電氣製造會社。)

(519) 露軍は其數が多い譯でもなかつたし、亦其陣地



が固い譯でもなかつたが、毫も我軍の攻撃に届しよう  
としなかつた。

1. être solidement retranché. 2. ni quoique  
……としてもいい。 3. céder à.

(520) 商人が債務履行に要する金がなくなつた爲に、  
支拂停止の必要に迫られることは、かなり頻繁にある。

1. s'acquitter de l'obligation (債務を履行する。)  
2. suspendre le paiement (支拂を停止する。)  
3. il arrive assez fréquemment que……としても  
いい。

(521) 御輦車に扈從する、昔風の衣服を着た人は、京  
都の附近「八瀬」と云ふ町から來た。

1. le chariot funèbre. 2. habillé.

(522) この政府は有益な改革を成就したが、是等の改  
革はこの政府の光榮となるものであらう。就中特筆す  
べきは義務教育と義務兵役とである。

1. 關係代名詞を用ひて文を簡ならしめよ。 2. entre

autres. 3. obligatoire (義務的。)

(523) 煙草は毒だ。故に、地球上に餘計に有害なもの  
があることになる。で、私は當局に迫ると俱に、力の  
及ぶ限りのあらゆる手段を盡して煙草の使用と戦はな  
ければならぬ。

1. il est ce qu'il y a de plus nuisible……  
2. les autorités. 3. par tous les moyens qui  
sont en mon pouvoir……としてもいい。

(524) 御輦車は、車輪の廻る度毎に玄妙なる音を發す  
る。この車の心棒は七色の哀調を發する様に工夫され  
てある。

1. gémir étrangement もひとつの譯し方。 2.  
l'essieu. 3. être disposé de telle sorte que..  
……としてもいい。

(525) あるサロンで一人の才氣のある紳士が、おしや  
べりで又同時に大變けちんぼうな一人の婦人に云つ  
た。



—奥さん、失禮ですが一つお勧めしたい事があるの  
ですが……。

—何でございますの? とその婦人は答へた。

—それはお口をもつと屢々お閉ぢになつて、お財布  
をもつと度々お開けになる様にといふことでは  
がね。

1. spirituel. 2. en même temps. 3. per-  
mettez-moi de…… 4. le porte-monnaie.

(526) 六時に御發引の號砲が鳴つた。御葬列は進行  
した。兵隊は銃を地面に向けて行進した。

1. le fusil tourné vers le sol. 2. défiler.

(527) 先日、八歳の可愛い少女が日比谷公園の花壇の  
中に足を踏込んだ。すると忽ち番人がやつて来て、其  
子を叱りつけた。それは勿論彼の職責であつた。然し  
彼は餘り苛酷に、而も聲を荒げて叱つたので、非常に  
神経質の此子は、泣き出して終つて、翌朝になつてや  
つと泣がやんだ。

1. réprimander. 2. de façon si brutale et

sur un tel ton que……としてもいい。

(528) ルウヴル博物館には、畫道の大家の手になつ  
た繪がある。ラファエルのマンドナは、今迄描かれた  
ものの内で最も美しい。

1. peint par…… 2. jamais. この副詞の用途を殊  
に研究せよ。

(529) 自分に宛てられて居ない手紙を開封するのは  
不誠實な行爲である。それには宛名の人(3)が秘密にして  
おきたいことがはいつてゐるかも知れない。

1. décacheter. 2. l'action perfide. 3. tenir  
secret.

(530) 注文取りの商人は、見本を携へて、屢々自家の  
品物を得意先に勧める爲に、國內や外國にさへ旅行を  
する。顧客はその見本の中から選擇して注文する。

1. le voyageur de commerce. 2. l'échantil-  
lon. 3. la clientèle. 4. faire le choix  
parmi……



(531) 曙光が獄窓から差込んで来た。彼はも一度日の光を見たいので、附添に窓掛を引いて貰ひたいと頼んだ。

1. filter par……を用ひてもいい。 2. afin que を用ひてもいい。 3. tirer les rideaux.

(532) あるフランス人がかう申しました。「歐州人がアメリカ人の古美術品に対する愛著に向つて、皮肉な微笑を洩らすのは誤つてゐる。この愛著は大西洋の東西を問はず同じ源を持つてゐるのだ。」

1. sourire ironiquement de……(……を冷笑する。) 2. avoir tort de + infinitif (……するのは間違つてゐる。) 3. au delà comme au deçà de…… 4. avoir la même origine.

(533) 毒瓦斯の犠牲となつた一名の露兵が、數日前、妻を伴つて長春に來た。彼は直ちに鐵道病院に入院し、日本眼科醫の治療を受けた。

1. les gaz asphyxiants. 2. Changchen. 3. le traitement médical.

(534) 日本銀行は近く、十萬圓の國債を發行する。債券は、五分利附で、償還期間五年である。額面百圓のものが九十五圓で發行される。

1. l'emprunt du gouvernement. 2. émettre. 3. le bon. 4. l'intérêt de 5%. 5. être rachetable en cinq ans. 6. la valeur nominale.

(535) 衆議院は、農、工、商業に、戦争負傷者強制使用に関する法案を、満場一致で可決した。

1. le projet de loi sur l'emploi des mutilés de la guerre.

(536) 行く川のながれは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまることなし。世の中にある人と住家と、またかくの如し。

1. s'écouler sans s'arrêter. 2. les remous. 3. tantôt……, tantôt…… 4. tels sont……を用ふるがいい。



(537) 一國民の精神が完全に發達するためには頗る多様な要素が必要である。だから、信仰だけでも足りないし、批評だけでは猶一層不十分であらう。

1. il faut……pour……としてもいい。 2. suffire à …… (……に充分である。)

(538) 是等の例は、ラテン精神並びにラテン精神の源であつたギリシヤ精神が、藝術に於いても政治に於いても、はた又文學に於いても哲學に於いても、秩序と節度と調和とを求めてゐるといふことを、我々に示してくれる。

1. le génie latin. 2. la mesure. 3. cherchant といふ現在分詞を用ひるも一法。

(539) 日本に於ける最初のラヂオ劇は小山内氏の作になるものである。

1. être de としてもいい。

(540) 去る五月の火災の爲に烏有に歸したアルス映

畫會社は、東京火災保險會社に三十萬圓の保險を付けてあつた。

1. être détruit par……とするも一法。 2. la Compagnie du cinéma l'Ars. 3. la Compagnie d'assurance contre l'incendie de Tokio.

(541) ある男がその友達の一人に、馬鹿に滅入つた調子でかう云ひました。「己が、家族つてものを、どう定義するか、君、知つてゐるか。お互に心と心とを觸れ合へない幾人かの人々が……同じ屋根の下に強制的に集められてることさね。」

1. mélancoliquement. 2. se sentir. 3. une réunion forcée.

(542) 嘗て山中を旅行してゐた時、夕暮に嵐が不意に身邊を襲ふた。私は樹蔭に避難しなければならなかつた。其處で、終夜私は寒さに顛へてゐた。これは露天で夜を過した初めてであつた。



1. un jour que……の言ひ方もある。2. un orage me surprit……でもいい。3. se réfugier à. 4. grelotter de froid. 5. à la belle étoile; en plein air.

(543) 昨日京橋の一小料理店で、四五名の客が<sup>(1)</sup>食事を終つた時に、その一人が、「雪が降つてゐる、初雪だ」と叫んだ。

1. achever de+infinitif (……し終る。)

(544) また元暦二年のころ、大地震(おほなる)<sup>(1)</sup>ふること侍りき。そのさま世の常ならず……おそれの中に<sup>(2)</sup>おそるべかりけるは、たい地震なりけりとぞ覺え侍りし。

1. dans la deuxième année de l'ère Ghennyryaku. 2. exceptionnel. 3. entre……, A vient en premier lieu. =……の中で、Aが一番……である。

(545) 自轉車に乗つてゐる人は、徒歩者を<sup>(1)</sup>あなどる。馬車屋の馭者は、嗜みが<sup>(2)</sup>ない。將校は、劍をさげてゐない人を<sup>(3)</sup>馬鹿にする。

1. le cocher de fiacre. 2. grossier. 3. dédaigner.

(546) 東京にはこの冬になつて遂に<sup>(1)</sup>初雪が降つた。

真夜中頃から降り出して、大きな綿雪は午前六時まで<sup>(2)</sup>降りつづき、五寸の厚さに地を蔽ふた。東北地方では<sup>(3)</sup>降り歇んでゐる。富士の裾野地方には吹雪襲來し、積<sup>(4)</sup>雪一丈に達した。<sup>(5)</sup>

1. neiger の重複を避けるため「東京は初雪を見た」と譯するの一法である。2. la neige à gros flocons. 3. continuer de tomber と continuer à tomber との異同に注意。4. intermittent. 5. une épaisseur d'un jo としなければならぬ。

(547) 昔は、將來を夢みたり、何々河岸を散歩したり、本を讀んだりするの<sup>(1)</sup>がうれしかつた、が、今はもうそれでは駄目だ。

1. heureux de.

(548) 通りがかりに御用聞きに<sup>(1)</sup>訊ねませう。斯う云



ふ場合にはいつも左様致します。御用聞は、<sup>(2)</sup>つづけさま、三人通つた。二人は何も知らなかつたが、三人目は西光寺を知つてゐた。

1. l'employé de magasin. 2. successivement.

(549) 我々は、おのれの頭と一風變つた頭を有つてゐる者を危険な人物となし、我々の道徳を少しも有つてゐない者を不道徳呼ばはりする。我々は、人が我々固有の夢を聊かも有つてゐないと、人が別な夢を有つてゐるか<sup>(3)</sup>どうかは問題にもせず、目して懷疑者呼ばはりをするのである。

1. ceux qui ont l'esprit fait autrement que le nôtre. 2. nos propres illusions. 3. sans s'inquiéter si…… 4. appeler sceptique……

(550) 支那政府は日本政府に兩國間の通商條約を廢棄する旨、非公式に<sup>(2)</sup>通告した。因つて、その翌日我外務大臣は英大使と對支交渉に關する意見を交換した。

1. dénoncer. 2. notifier. 3. les négociations

concernant la Chine でもいい。

(551) フランス古典作家<sup>(1)</sup>の特徴となつてゐる事は、彼等の精神が豊か<sup>(2)</sup>で平衡<sup>(3)</sup>を得てゐることである。それは彼等が浪漫派や、現實派の人々から、同じ距離にあるからであり又、彼等が、前者の各々の長所<sup>(4)</sup>を持つてゐるからでもある。

1. ce qui distingue…… 2. la plénitude.  
3. l'équilibre. 4. この句の譯し方に注意。

(552) 藤澤! この言葉は、私の耳には氣持のいい響<sup>(1)</sup>を與へる。嘗て、片瀬に別荘住ひをしてゐた頃、私はこの驛に止まるのであつた。その時分には、藤澤、鎌倉<sup>(3)</sup>間を連絡する電車は全くなかつた。片瀬までは、歩いて行くか、十錢で人力に乗つて行くのであつた。

1. sonner joyeusement. 2. (451) 参照。 3. relier A à B=A と B を連絡する。 4. aller en pousse-pousse.

(553) 私は十人の息子<sup>(1)</sup>を持つてゐたある人を知つて



ある。その人は長男を辯護士に、次男を醫者に、三男と四男とを商人に、五男を<sup>(2)</sup>ブローカーに、六男と十男とを<sup>(3)</sup>園藝家に、七男を小學校の先生に、八男を士官に、九男を工業家にしたてた。

1. être le père de…….としてもいい。 2. le courtier. 3. le horticulteur.

(554) 小生儀、東京小間物の仕入及び發送の爲、今般<sup>(1)</sup>一手問屋を設立致し候間、此段御通知申上候。<sup>(2)</sup>  
<sup>(3)</sup>  
<sup>(4)</sup>

1. les Articles de Tokio. 2. l'achat et l'expédition. 3. une Maison de Commerce spéciale. 4. j'ai l'honneur de porter à votre connaissance que…….も一つの言ひ方である。

(555) 『五中』では、今度あの有名な鐘を<sup>(1)</sup>電氣仕掛のにするさうである。指一本觸れれば、鐘が景氣よく鳴るのである。

1. la machinerie électrique.

(556) この事件で、あの人は、不幸にも<sup>(1)</sup>息子を失くし

た。あの人の方は、<sup>(2)</sup>僥倖にも、片方の足を挫いただけ<sup>(3)</sup>で助かり、他の傷は<sup>(4)</sup>うけなかつた。

1. avoir le malheur de…….とする譯し方もある。  
2. par heureux hasard. 3. s'en tirer. 4. se faire une blessure=傷をうける。

(557) 文部大臣は、日佛美術關係を<sup>(1)</sup>向上せしむる目的<sup>(2)</sup>を以て、東京に、佛蘭西美術展覽會を設立せんとする意向あり。

1. le ministre de l'Instruction publique. 2. développer.

(558) 最大の幸福は、如何なる<sup>(1)</sup>慾望にも苛責されないことであると言ふ。だが、私は解らない。と言ふのは何も希はずして<sup>(2)</sup>苦しんでゐる人が澤山あるから。意志や省察、睿智によつて、己の<sup>(3)</sup>慾望を制限する哲學者は<sup>(4)</sup>忍従の人である。幸福人ではない。

1. être tourmenté du désir. (慾望に苦しまされる。)  
2. beaucoup (d'hommes) souffrent de…….としてもいい。 3. borner le désir. 4. le résigné.



(559) <sup>(1)</sup>該競泳場の廣さは次の如し。幅十八米突、長さ五十米突、一萬人の觀客を收容する階段席。<sup>(2)</sup>

1. ce stade-piscine. 2. des gradins.

(560) 青年が試験に成功する爲には、己を信ずる心を全然失つてはならない。又おめおめ落膽する様なこともあつてはならない。<sup>(3)</sup>

1. pour que. 2. la confiance en lui. 3. se laisser gagner par le découragement するのほひとつの譯し方である。

(561) 高等學校の時計臺の近くで、大變人がたかつてゐた。二三の旗をめぐらして、テーブルの上に乗つた人が息を切らして演説をしてゐた。<sup>(2)</sup>

1. la tour de l'horloge. 2. à perdre haleine でもいい。

(562) 櫻の枝に、見たところ綺麗な、丸い、申分のない鳥の巢があつた。四羽の雛がその中に生れてゐた。<sup>(2)</sup> 父は、鳥を籠に入れておくのは罪惡だと、これまで度

々私に言つて聞かせたことがある。<sup>(3)</sup>

1. joli à voir. 2. venir d'y éclore. 3. expliquer.

(563) 家資分散は、破産者の過失から惹起されたものとして、法に罪せられた破産である。單純破産は、業務紊亂に招致されたもので、輕罪と看做され、詐欺破産は、詐欺を伴ふもので、重罪と看做されてゐる。<sup>(7)</sup>

1. la banqueroute. 2. être occasionné par ..... 3. la faillite. 4. la mauvaise gestion. 5. le délit. 6. la banqueroute frauduleuse. 7. le crime.

(564) 社會を厭ひ人類を嫌ふのは、身体の不健康なことを證するものである。健康を恢復すれば、自然人生觀が變つてくる。<sup>(2)</sup>

1. détester. 2. la façon de voir le vie でもいい。

(565) 人類學は、有史前の時代に屬する様々な人間の痕跡や事物等を豊富に蒐集した。<sup>(3)</sup>



1. appartenir à の現在分詞を用ひよ。 2. le débris humain. 3. recueillir une immense collection de……としてもいい。

(566) 九州製紙工場製品の価格は相變らず頗る低廉であり、且つ此の種の歐州製品の価格とは比較にならぬ程一層廉價であるにも關らず、重要な船荷は全く出でゐない。

1. la Manufacture de papier de Kyushu.  
2. incomparablement. 3. quoique…… 4. il se fait des chargements. (船荷が出る。)

(567) M 子は、早く床についた。然し月が中天に昇り、家中が寢静まつた時、彼女は羽織を大急ぎでひっかけ、素足のまゝそつと外に出た。

1. être plongé dans le sommeil. 2. se glisser au dehors. としてもいい。furtivement を用ひる譯し方もある。

(563) 浪漫派はその根本に現實恐怖と、現實逃避の慾望とを持つてゐた。

1. pour fond. 2. l'horreur du réel. 3. désir d'y échapper.

(569) 生命がいつかは、歩みを止めることは明かではないか。我々は、死灰の星辰が凜烈たる空間を運行してゐるのを觀てゐるではないか。人間の球界もやがてはひからびてしまふであらう。さまざまな人種の蓄積したある限りの作品も、その文明も、互にひしめき合つた努力の數々も、思想や人意のすべての證左も、何も彼も消散し、微塵に碎け、絶滅するであらう。さうだ、空に漂ふ一抹の煙の消ゆるよりも更に儚く。「地球」は死滅し、そして地上の萬物も死滅するであらう。

1. n'est-il pas sûr que……? 2. l'astre éteint. 3. l'espace glacé. 4. rouler. 5. se dessécher. 6. accumuler (蓄積する。) 7. tous les efforts poussés les uns sur les autres. 8. le témoignage. 9. disparaître. 10. s'effriter. 11. s'anéantir. 12. bien plus qu'une fumée……

(570) 私は、佛蘭語が再び隆んになりつつあることを



喜び、日本の中學にも他の外國語の如く、佛蘭西語の研究せらるゝに至らん事を望むものである。

1. se propager を用ひてもいい。 2. se réjouir de. 3. souhaiter.

(571) 獨逸に、一つの歴史學派がある。この學派は、大工業は宗教改革の産んだものだと主張する。私は、これは誤謬だと信ずる。

1. une école d'historiens. 2. soutenir.

(572) 一旦那、みつきこのかた、お値段を倍にしない料理屋はあつしのとこだけですせ。

—えらい! ……で、どうしてゐるんだね。

—盛りを、皆半分にして満足してゐるまさあ。

1. doubler le prix. 2. nous sommes le seul restaurant qui……としてもいい。 3. Bravo!  
4. la portion. 5. réduire de moitié……

(573) 先生はポケットから時計を出した。何といふ時計だ。鎖もつけない、銀側の時計だ。時間を見たか

(3) と思ふと、軽く會釋して教場を静かに行つた。

1. sortir. 2. à boîte d'argent. 3. à peine……, que……の言ひ方を用ひてもいい。

(574) 十九世紀は、顯著な進歩の世紀である。但し進歩といふ語を、富、權力、安樂、智識の増加と解した上の話である。

1. entendre par A, B=A を B と解する。entendre, s'entendre の様々な意義を研究せよ。

(575) 實際、ニコチンは頭の働きを鈍くして、少しづつだが確實に、低能に導くものである。

1. la vérité est que……とするも一法。 2. les facultés intellectuelles でもいい。 3. émousser. 4. conduire à l'abrutissement.

(576) 秋の夜の街の静けさよ、時折番犬の鳴聲と、突進する汽車の響が静寂を破るばかりだ。

1. la ville nocturne. 2. la silence n'est troublé que de……としてもいい。



(577) 要するに、現代は汎世界主義の<sup>(1)</sup>状態を現出せしめたのだつた。この状態はある見地よりすれば、中世<sup>(2)</sup>を慥<sup>(2)</sup>ばしめた。

1. le cosmopolitisme. 2. rappeler.

(578) 国内のながめは<sup>(1)</sup>變化に富み、<sup>(2)</sup>繪のやうな趣がある。峨々たる岩石<sup>(4)</sup>屹立し、或は鬱葱たる森林に蔽はれた山嶽、<sup>(5)</sup>景勝極りない溪谷、小川、幾多の河の貫流する大平原、さうした風景は、見る眼に、<sup>(7)</sup>一幅の様々な繪畫の觀を呈してゐる。

1. l'intérieur du pays. 2. varié. 3. pittoresque. 4. hérissé. 5. riant. 6. arrosé par ..... 7. présenter aux regards une foule de.....

(579) 田舎の學生は今でもよく、「醉つては枕す美人<sup>(1)</sup>の膝、醒めては握る天下の權<sup>(2)</sup>」なんて歌つてゐる。

1. mettre la tête sur.....とするも一法。 2. l'empire du monde.

(580) 人間といふものは、自己の受けてゐる<sup>(1)</sup>變革を正しく感ずることは無いものだし、自己の爲し果しつゝある<sup>(3)</sup>變革をすらもさうである。

1. les révolutions. 2. avoir le sentiment exact de..... 3. ni même.....

(581) 東京を未だ江戸といつた<sup>(1)</sup>封建時代には、火事は江戸の華即ち江戸の名物の一つである、と云つた。

1. à l'époque féodale.

(582) 銀行と商業會議所が協力して、<sup>(2)</sup>經濟的競争と戦ふことは、現在も必要であり、將來は尙一層必要だらう。

1. la chambre de commerce. 2. la concurrence économique.

(583) 我々の法律學は、大部分羅馬人のお蔭で出来たのである。佛國の法律の多くは、羅馬法から出てゐる。<sup>(2)</sup>

1. c'est à.....que nous devons.....としてもい



い。 2. venir de.

(584) 江原氏は新約、舊約の二著<sup>(1)</sup>で有名になつた。この浩瀚なる著作の原稿は、東京中の本屋で断られた。帝大の二三の教授の盡力<sup>(2)</sup>で、江原氏著書出版のための特別の出版所が出来た。

1. se rendre célèbre par…… 2. grâce à l'appui de……としてもいい。

(585) 拜啓 賃貸契約の期限満了の爲、幣店の工場、<sup>(1)</sup>店舗、事務所及び帳場は神田より日本橋室町三丁目に<sup>(2)</sup>移轉仕候 勿々頓首<sup>(3)</sup>

1. l'expiration de bail. 2. la caisse. 3. transférer. (移轉させる。)

(586) 佛國大革命は、世界で起つた最も注目すべき事<sup>(1)</sup>件の一つである。この革命は、一世紀後に至つても未だ<sup>(2)</sup>芽を出しつくさぬ様な種子を遠くに投げたのである。

1. le plus……qui →subjontif. 2. qui n'ont pas toutes germé……

(587) 快樂と苦痛は實に密接な關係があるので、神々<sup>(1)</sup>もこれ等を引離す望みを絶つて、一が来れば他がこれ<sup>(2)</sup>に随ふやうな風に兩者を結び合はした程である。

1. désespérer de les séparer. 2. de sorte que……

(588) 學生は中學を出ると、高等學校や専門學校の、<sup>(1)</sup>入學志願者の十分の一しか入學出来ないと云ふ激烈な<sup>(3)</sup>競争を体験する。最近の統計によると、東京の高等學<sup>(4)</sup>校に八千人押掛けて、二千人しか入學出来なかつた。<sup>(5)</sup>東京に私立大學が十許あるが官立がうけがいい。

1. au sortir de. 2. le candidat. 3. la compétition ardente. 4. la statistique. 5. admettre を用ひよ。

(589) 車中で、

—御家族はおありになりますか、奥さん。

—ええ、息子が一人。

—あゝさうですか。息子さんは煙草はあがりますか。<sup>(1)</sup>

—いいえ、一本だつて觸つたことも御座いません。<sup>(2)</sup>



<sup>(3)</sup>  
—結構ですな。煙草は毒ですよ。晩は遅くお歸りですか。

—決して。いつも御飯を頂くとすぐに寝みますの。

1. fumer. 2. même une cigarette. 3. tant mieux.

(590) 空は重苦しい灰色の雲で覆はれてゐた。東京灣には小波が立つてゐて、その色は身の毛のよだつ様な緑色だつた。昨夜の風は静まつて陽氣が急にまた暖かになつた。

1. de petites vagues sautillaient…… 2. tomber.

(591) 両側に、唯見えるものは、<sup>(1)</sup>ギツシリ坐つてゐる群集だ。開けた店には、坐つたり立つたりしてゐる拜観者の列で、<sup>(2)</sup>恰も満員の芝居の坐席の様だつた。

1. une foule compacte assise. 2. ressembler à.

(592) 三人の姉妹の住んでゐた<sup>(1)</sup>掃除の行届いた二階

<sup>(2)</sup>と違つて、<sup>(3)</sup>階下は伯母と其の家族が住んでゐて不潔だつた。

1. très soigné でもいい。2. à la différence de; tandis que など譯し様によつて、種々の言ひ方がある。3. le rez-de-chaussée.

(593) 労働者等は雇主をして給金を増させたり、或は労働時間を減じさせたりするために、<sup>(2)</sup>同盟罷業を起す。然し、往々資金不足のため、<sup>(3)</sup>同盟罷業者は數週間の休業の後に、時によると舊條件の下に<sup>(5)</sup>再び仕事を始めなければならなくなることがある。

1. obtenir, de leurs patrons, une augmentation de salaire……; faire leurs patrons augmenter le salaire……等の言ひ方がある。2. se mettre en grève. 3. le gréviste. 4. le chômage. 5. reprendre le travail.

(594) 古典派は人間研究のみに止まるといふ缺點を<sup>(1)</sup>持つてゐた。あまり人類學的な文學である。浪漫派によれば、自然を凝視し、<sup>(3)</sup>生々としてやまない自然と共



に生きなければならぬのである。

1. se borner à.
2. anthropologique.
3. toujours vivant.

(595) 其の夜は暗くて、秋のこまやかな雨に濡れた風<sup>(1)</sup>は、湿気で膨らんだ戸の障子を震はしながら吹いてゐた。<sup>(2)</sup>

1. mouillé par……
2. gondolé; gonflé.

(596) 生産、消費、財政経済状態及び其他雑多の補助知識を同時に包含する複雑なる研究は、現代の国際貿易<sup>(1)</sup>には必要<sup>(2)</sup>なくべからざるものである。

1. embrasser (包含する)の現在分詞を用ひるを便とす。
2. indispensable à.

(597) \* 日本に於ける現在の失業者数は、五十萬を遙かに超えてゐるから、労働黨を、完全な手段によつて、出来るだけ早く組織<sup>(3)</sup>することの必要な<sup>(4)</sup>のは言ふまでもない。

\* évaluer を用ひて書き出した方が比較的容易である。失業者数を主格とすれば、dépasser を用ひて、展開さしてゆかなければならぬ。1. le nombre actuel des sans-travails. 2. le parti travailliste. 3. organiser (組織する.); s'organiser (組織される。) 4. il est nécessaire, sans doute, que……; il va sans dire qu'il est nécessaire que……

(598) 十四、十五世紀は、中世と文藝復興との間の推移期<sup>(1)</sup>と考へられる。或は、未だ分明ならざる、又無自覚な初期文藝復興とも考へられる。<sup>(2)</sup><sup>(3)</sup>

1. un périod de transition.
2. confus.
3. inconscient.

(599) 三十日朝の中央氣象臺の観測によれば、東京は極端なる嚴寒にして、かかる冬は最近三十年間同地に於ては未だ嘗て経験しなかつた程である。寒暖計は零下十五度三分を示した。<sup>(1)</sup><sup>(2)</sup><sup>(3)</sup><sup>(4)</sup>

1. les observations météorologiques du bureau Central (météorologique).
2. il a fait un froid excessivement rigoureux à



Tokio としてもいい。3. tel que…… 言ひ方も用ひられる。4. marquer.

(600) 千九百十三年七月二十一日の布告を以て、<sup>(1)</sup>温度零度以下の時に、<sup>(2)</sup>露店に於て十八才未満の少年及一切<sup>(3)</sup>の婦人<sup>(4)</sup>を使役することを絶対に禁じた。

1. le décret.
2. aux étalages extérieurs.
3. des femmes de tout âge.
4. l'emploi.

(601) 拜啓 <sup>(1)</sup>此狀持參者、多田清氏を御紹介申上候。氏は御當地を経て大阪へ赴く者に御座候。何卒、同氏に精々商業上の御援助<sup>(2)</sup>を賜り度く、猶ほ氏の旅行の目的<sup>(3)</sup>に萬事宜しく御便宜<sup>(4)</sup>を御計ひ下さる様、御願ひ申上候。

<sup>(5)</sup>此儀御承引下され候はば、感謝の至りに御座候。

<sup>(6)</sup>敬具。

在名古屋 土井一郎様

馬場退藏

1. je me permets de vous introduire le

porteur de la présente, M. Kiyoshi Tada.  
2. de vouloir bien lui accorder…… 3. de toutes les manières. 4. faciliter を用ひよ。5. Recevez-en à l'avance tous mes remerciements. とも言ふ。6. 「敬具」に相當する書簡文の結語は澤山ある。一例を示せば Votre bien dévoué serviteur.

(602) 獨逸は<sup>(1)</sup>膠州灣の讓渡に同意し、その代りに、支那沿岸の他の地點における<sup>(3)</sup>獨逸植民地設立に<sup>(4)</sup>反對しないことを、日本に要求した。

1. la cession de Kiao-Tcheou.
2. en échange
3. l'établissement d'un colonie allemande.
4. de ne pas s'opposer à……としてもよし、que に従ふ附屬文を以てする譯し方を採るもいい。

(603) この天文臺は學術の擁護者の<sup>(1)</sup>過分の寄附に依つて成つたものである。この研究所は、<sup>(3)</sup>器具が舊式であり又不充分なため、<sup>(4)</sup>引けをとつてゐた日本の學者をして、重大なる研究に携はり、日本が決して失つてはならぬ地位を獲得せしむるものである。<sup>(5)</sup>



1. l'observatoire (astronomique). 2. le don généreux. 3. le matériel. 4. mis en infériorité といふ言ひ方もある。5. permettre à quelqu'un de……(或人をして……することを得しめる。)の言ひ方を用ひてもいい。

(604) 原料品の原價騰貴<sup>(1)</sup>の爲、小間物化粧品の大商店では、大部分の商品を二割方値上げ<sup>(2)</sup>した。<sup>(3)</sup>

1. la hausse de prix coûtant. 2. des nouveautés 3. élever de 20% (vingt pour cent) le prix de……=……の値段を二割上げる。

(605) X 氏は、有名なる教育家福澤氏<sup>(1)</sup>の私立大學慶應義塾に學んだ。この時分から、彼は他日大臣、而も立派な大臣になることを確信<sup>(2)</sup>してゐた。

1. l'université libre. 2. ne pas douter を用ひてもいい。

(606) 先週の土曜日に、友人と、四谷の「喜よし」に行つた。左樂が高座で蛙の様に、<sup>(1)</sup>兩手をついて、御辭儀してゐるところだつた。それから扇子を<sup>(3)</sup>いぢくりな

がら、熊次郎の話が始めた。

1. les mains par terre. 2. être en train de …… 3. jouer avec.

(607) 吾々は、佛國人が<sup>(1)</sup>舊制度を顛覆せしめて、自由と平等との基礎の上に、新らしい制度を組織した、佛國史上の時期を、佛國大革命<sup>(2)</sup>といふ名で呼ぶ。

1. l'ancien régime. 2. désigner sous le nom de……

(608) 本年の頻々たる同盟罷業は、階級の不平等、社會の不安定に據るものである。<sup>(2)</sup>東京綿糸紡績會社、<sup>(3)</sup>後藤毛織會社、<sup>(4)</sup>三菱造船所のがその主なるものである。此等の罷業は、<sup>(5)</sup>物價騰貴の爲と云ふより労働者自身の給料と會社の收入との餘りに懸隔のある爲に起つたものらしい。

1. c'est……qui cause……とするのも一法。 2. la Compagnie des filatures de coton de Tokio. 4. le Chantier de Mitsubishi. 5. la vie chère でもいい。 6. disproportionné.



(609) 狂犬病や其他多くの病氣を治癒する方法を見出したのは十九世紀の最も偉大な學者 Pasteur であります。Pasteur 及び彼の弟子達の発見は全人類にとつての恵みでありました。

1. la rage. 2. guérir. 3. le bienfait.

(610) 時事は、先週水曜日から大阪及びその近郊において大同盟罷業の激甚を極めつつあることを、報道してゐる。造幣局職工と神戸海員組合員は該運動に参加しなかつた。

1. sévir. 2. annoncer; dire; rapporter; informer 等を用ひる。3. les ouvriers de la Monnaie. 4. les membres de la Société des marins. 5. se joindre à; s'associer à.

(611) 出兵の目的は居留民の保護にあるから、危険が一掃された以上、出来るだけ速かに撤兵するのは至極當然なことである。

1. l'expédition. 2. le national. 3. une fois

les périls conjurés. 4. retirer les troupes.

(612) 十九世紀の初頭、第二の佛蘭西文藝復興とも稱し得可きものがあつた。Lamartine, Victor Hugo, Alfred de Musset, Alfred de Vigny の如き優れた詩人達が、不朽の傑作を以て佛國の詩壇を豊かにしたのである。

1. comme une seconde…… 2. enrichir.

(613) 或女學校で、先生が卒業する十七、八の女學生達に、結婚の理想を問ふた。勿論、回答は無記名である。七十二の回答があつた。そのうち、夫の人格に関して、相當の教育あることを希望してゐるものが三十四名、男性的なことを望んでゐるものが二十五名、品行方正が十九名、体格強健が十七名、酒も煙草も飲まない方と云ふのが十二名、溫和な方と云ふのが九名、趣味のある方が九名、商賣上手の方と云ふのが七名であつた。

1. finir son étude. 2. l'idéal de mariage.



3. anonyme. 4. au point de vue de la personnalité de mari. 5. demander. 6. le caractère viril. 7. la sobriété. 8. la bonne constitution. 9. l'homme habile dans sa profession.

(614) 商店に受けた注文は、商品係がこれを處分する。總て商品の發送には、支拂額を指示した計算書を附けてやる。

1. les ordres. 2. le magasinier. 3. exécuter. 4. l'envoi. 5. la somme à payer. 6. la facture.

(615) 毎年、通常年末或は事務閑散期に、棚卸勘定が行はれる。これは動産、不動産、債権、債務等を含む。消極財産に對する積極財産の超過額が商人の財産状態となる。棚卸勘定は年度貸借對照表に他ならないものである。

1. la morte saison. 2. l'inventaire. 3. se faire. 4. les effets mobiliers et immobiliers,

les créances, les dettes, etc. 5. comprendre. 6. le passif. 7. l'actif. 8. l'excédent. 9. le bilan annuel.

(616) 外國語教授とラヂオ。—嘗て、中學程度の學生に、諸外國語の發音に耳を慣らす爲蓄音器を用ひる計畫があつた。然し、レコードの數は、限られたものであり、また可成高價なものである。その爲、この計畫は放棄された。今日は安價で、何時たりと外國語を聞き得るラヂオが提出されてゐる。千葉のある小學校の先生は、自作の器械で、京城と上海の放送を聞いてゐる。

1. l'élève de l'enseignement secondaire. 2. s'habituer à la prononciation de…… (……の發音に慣れる。) 3. le phonographe. 4. former le projet d'utiliser……としてもいい。 5. à bon marché. (安價で。) 6. on propose…… 7. un instituteur である。 8. les émissions de postes de Séoul et de Changhai.

(617) 要するに、支那は、原料の供給國として世界に一位を占めてゐる。日本とは海峽一つ隔ててゐるのみ



で、昔から深い交渉<sup>(3)</sup>があつた。その位置は、吾人と經濟的親交を結ぶに最も適<sup>(4)</sup>してゐる。

1. le fournisseur de matières premières. 2. séparé du Japon seulement par un bras de mer. 3. être en rapports avec..... (.....と交渉がある。)もひとつの言ひ方である。4. propice à.

(618) ドイツ軍公報<sup>(1)</sup>によれば、S市は、その手に奪取<sup>(2)</sup>せられたりと。然れどロシア軍公報は、該件に關して何等報する所なし。

1. le communiqué officiel. 2. enlever. (奪取する。)

(619) 衆議院は昨日新税<sup>(1)</sup>に關する法案の本會議を結了した。この法律が實施されても、中流階級に聊かの動搖<sup>(3)</sup>を惹き起し<sup>(4)</sup>さうにも思はれないし、勿論、斷じて我國の經濟狀態<sup>(5)</sup>に累を及ぼすことはあるまい。

1. le projet relatif aux nouveaux impôts. 2. la discussion générale. 3. la perturbation. 4. ....ne sembla pas devoir amener.....と

してもいい。5. pervertir.

(620) 日本人七千萬のうち、外國に住居するものは僅か十三萬で、その半數はハワイ在住<sup>(2)</sup>である。日本人は最も非移住的國民<sup>(3)</sup>である。日本は人口稠密<sup>(4)</sup>ではあるが越過<sup>(5)</sup>はしてゐない。北國には到る所未だ空地がある。

1. résider à l'étranger. 2. les îles Hawaï. 3. émigrer (cf. immigrer) 4. la densité, (密度。) 5. être surpeuplé. (人口過剰である。)

(621) 一國語を覺える爲に<sup>(1)</sup>どんなに注意を拂ふとしても、「規則」ばかりでは駄目だ。絶えずそれを使ふの<sup>(2)</sup>が必要だ。

1. quelques soins qu'on apporte..... 2. un usage constant.

(622) 近時、多くの著作家が農村問題<sup>(1)</sup>に意を須ひ、農業の頹廢<sup>(2)</sup>を慨嘆してゐる。然し、農村は衰微するにあらずして、單に他の工業と比較して發展しないのみで<sup>(3)</sup>



ある。日本も歐州と同様に、地方人が都會に集中する傾向がある。

1. s'occuper de. 2. déplorer. 3. en comparaison de. 4. tendre à se concentrer dans……

(623) 若し吾人にして善く生を送り、その應報に恐るゝ所よもなからんには、何ぞ死を恐る可き。

1. les suites. 2. pour ne pas.

(624) 肉體的苦痛や、精神的苦痛、魂や官能の慘苦、惡人の幸福、正義の人の汚辱、すべてさういふものは、若し人間がその前後の事情や經濟關係をよく了解するならば、又、そこに潜む宇宙の攝理を洞察するならば、猶耐へ忍ぶことが出来るであらう。

1. l'humiliation du juste. 2. l'ordre et l'économie. 3. concevoir. 4. deviner.

(625) 外國に於ける經濟組織は大規模に行はれてゐて、個人的爭鬭が許されない。アメリカに trust あり

英國に trade union あり、獨逸に syndicats があるに反して、日本に於ては、工業家と商業家とが全く接戦を演じてゐる。

1. les organisations économiques. 2. les luttes individuelles. 3. l'Amérique a le trust……とするを便とす。4. tandis que を用ひてもいい。5. se livrer à de véritables corps à corps もひとつの譯し方である。

(626) 度量衡器の製造、修覆、又は販賣の許可を得たるものにして、本法に違反したる場合には、行政官廳は其の許可を取消す事を得。

1. des instruments de pesage et de mesurage. 2. obtenir l'autorization de. 3. en cas de contravention. 4. annuler.

(627) 戦後の物價騰貴の爲、官吏は、その貧弱な俸給では生計を立てて行けない。巡查、小學校教員、鐵道従業員は、一圓乃至四圓の増俸があつた。然し、この増俸では役に立たない。



1. le fonctionnaire. 2. le maigre salaire.
3. les employés des chemins de fer. 4. augmenter を用ひよ。

(628) 巴里のある店<sup>(1)</sup>で買物する外国人は、欲しいものを求めたり、値段<sup>(2)</sup>を聞いたりする場合によく使はれる常用語法に通じておくがよい。

1. faire des achats. 2. se renseigner sur les prix の言ひ方でもいい。3. être au courant de.

(629) 過去分詞が助動詞 avoir と變化せしめられてゐる時には、その直接補語と性數<sup>(1)</sup>を同じうする、たゞし、この補語が分詞の前に置かれてある場合である。

1. s'accorder en genre et en nombre avec... 2. 譯するに及ばず。

(630) もしも、質屋<sup>(1)</sup>さんですか、番頭<sup>(2)</sup>さんに出てください。— 番頭<sup>(3)</sup>さんですか。今何時ですか、教へてください。どうして怒る<sup>(4)</sup>んです。私の時計は貴方の店に行つてゐるぢやないんですか。

1. Allo! 2. le mont-de-piété. 3. le directeur. 4. se fâcher. 5. être chez vous.

(631) 臨時外交調査會の集會中、日本の外務大臣幣原男爵は、政府が對支政策<sup>(2)</sup>の意義を更に闡明にせんことを促し、同時に、氏は駐支英國大使に對して、支那に關する英國の覺書中に含まれてゐる諸提議を、日本は否決<sup>(5)</sup>することを、聲明した。

1. la commission diplomatique spéciale. 2. définir clairement.....=.....の意義を闡明にする。
3. inviter quelqu'un à + infinitif = 或人に.....せんことを促す。4. le memorandum britannique sur la Chine. 5. rejeter.

(632) 小蒸汽船上にラヂオ、妙案だ。昨日兩國橋から言問行の蒸汽船上に初試験<sup>(2)</sup>が行はれた。デツキと船室に備へた擴聲器<sup>(3)</sup>により、船客はグリーグのメロデー<sup>(4)</sup>とベートーベンのソナタを聞くことが出来た。

1. le bateau-mouche. 2. être tenté. (試みられる。) 3. le haut parleur. 4. des mélodies de Grieg. 5. des sonates de Beethoven.



(633) 昨夜火事が神田區に起りました。火消しは、すぐ來ましたが、風が猛烈に吹いてゐましたので、火事は非常に擴がつて了ひました。

1. 分詞法を用ひよ。 2. donner un développement extraordinaire.

(634) 米穀を買占めんとする不正取引に對して最近農商務大臣の發した警告は、日本各地の米穀取引所に一大恐慌を惹起した。

1. les transactions malhonnêtes qui tendaient à accaparer le riz. 2. la Bourse du riz. 3. produire une grande panique.

(635) 地球が人間に適しない一時代が嘗てあつた。即ち、あまり熱く、あまり濕氣が多かつたのである。やがて、地球が、最早や人間に適しなくなる時代が來るだらう。即ち、あまり寒く、あまり乾燥しすぎるだらう。大陽の消滅する頃には、すべての人間は、とつくの昔に、姿を消してしまつてゐるだらう。

1. convenir. 2. il fut un temps où..... 3.

il viendra un temps où..... \* 以下の一文、時の關係に注意すべし。 4. s'éteindre. 5. disparaître.

(636) Low 教授は、設置された場所の振動の強弱を、自動的に記録する Audiometer と云ふ器械によつて、倫敦の地下鐵道の車輛の生ずる音響を研究した。九月一日の Railway Gazette の報するが如く、彼は、其の音響は、單に車輪に依て生じ、車体は共鳴体の作用をなして居ることを發見した。

1. l'intensité des vibrations. 2. enregistrer automatiquement. 3. à l'aide de. 4. le métropolitain de Londres. 5. provenir de ..... 6. fonctionner comme résonateur.

(637) Rabelais の異端説は、文藝復興期それ自身の異端説に外ならない。この異端説は最も廣い意味の又最も深い意味の自然主義である。

1. l'hérésie. 2. n'est autre que..... 3. dans le sens.....

(638) 無論申上げるまでもなく、私共は貴殿の御申込



み<sup>(2)</sup>を喜んで御受け致すと俱に、貴殿との間に有利にして永<sup>(3)</sup>續的な關係の成立を見んことを切望いたしております。

1. inutile de vous dire…….としてもいい。
2. avec empressement. 3. de voir s'établir……

(639) 日本<sup>(1)</sup>の或るフィルム商會を代表して、松田氏は東京海上保險會社<sup>(2)</sup>を對手取り、保險金取戻し訴訟<sup>(3)</sup>を提起した。

1. une maison de films japonaise. 2. la Compagnie d'assurance maritime de Tokio.
3. inventer un procès.

(640) 彼等は、戸も窓も皆閉め切つた或る家<sup>(1)</sup>で、戸外に見張人を置き、毎週一回秘密會合<sup>(2)</sup>を催す。警官はこの秘密會合<sup>(3)</sup>をよく知つてゐるが、然し干涉の權能がないと言つてゐる。

1. avec des sentinelles placées au dehors.

2. tenir des rendez-vous secrets. 3. le pouvoir d'intervenir.

(641) 乗客は皆、唸つたり、<sup>(1)</sup>唾を吐いたり、飲んだり食つたり、或は席を争つたりする。男は女よりも身輕<sup>(2)</sup>なので、青年や紳士がすわる。ところがお婆さんや小供<sup>(3)</sup>を背負つた女や、病身であるに違ひない婦人までが<sup>(4)</sup>立つて居なければならぬ。

1. cracher. 2. s'asseoir. 3. rester debout.
4. manifestement malade でもよろし。

(642) 象徴派<sup>(1)</sup>は、高踏派詩人中<sup>(2)</sup>に存する峻嚴すぎた物<sup>(3)</sup>に對する誠<sup>(4)</sup>に有難い反動である。と同時に又、浪漫派の繼續<sup>(5)</sup>であり、又その甚だ賢明な變容でもある。

1. l'école symboliste. 2. les Pamassiens.
3. rigide. 4. une réaction très salutaire. 5. une transformation très intelligente.

(643) 此度、形式の如何を問はず社會<sup>(1)</sup>の秩序安寧<sup>(2)</sup>を圖り、労働者の精神<sup>(3)</sup>的及物質<sup>(4)</sup>的改善に貢獻せる人の脱俗



的事業に報ゐる爲、<sup>(5)</sup>社會奉仕章が<sup>(6)</sup>制定せられた。

1. la diffusion et le fonctionnement des assurances sociales. 2. contribuer à <sup>(1)</sup>を用ひてもいい。 3. l'amélioration de la condition morale et matérielle. 4. les services des intéressés. <sup>(2)</sup>でもいい。 5. la médaille d'honneur des assurances sociales. 6. instituer.

(644) 老人達は自分の考へにあまり執着しすぎる。<sup>(1)</sup>  
<sup>(2)</sup>だから、<sup>(3)</sup>フィヂイ諸島の土人等は、その両親が老年になると、これを殺すのである。彼等は斯うして進化を容易ならしめるのに、<sup>(4)</sup>翻つて我々は、<sup>(5)</sup>さまざまな學會を起して、進化の歩みを<sup>(6)</sup>遅滞せしめてゐるのである。

1. tenir à. 2. c'est pourquoi..... 3. les naturels des îles Fidji. 4. tandis que..... 5. en faisant des académies <sup>(1)</sup>としてもいい。 6. retarder.

(645) 商人が<sup>(1)</sup>破産を宣告する場合には、<sup>(2)</sup>破産財團は賣却され、その純収入は、<sup>(3)</sup>債権者間に於て、各債権者の債権額に比例して分配される。

1. se déclarer en faillite. 2. la masse de la faillite. 3. le produit net. 3. proportionnellement à; en proportion de.

(646) 雨が降らうが風が吹かうが、<sup>(1)</sup>通りが<sup>(1)</sup>りの人の情で生活してゐる一人の哀れな老人が、毎日お晝に公園のベンチにやつて来て、近所の雀を呼んで彼の食事である御飯粒を雀に<sup>(2)</sup>撒いてやる。

1. la générosité des passants. 2. nourrir <sup>(1)</sup>を用ひよ。

(647) 商業上より見て實に重大なる<sup>(1)</sup>晦日及び大晦日が日曜又は國祭日に<sup>(2)</sup>遭遇することがある。其れが爲、支拂や勘定に<sup>(3)</sup>繁雜を來たすことがある。利息や俸給の計算は無駄な手数が<sup>(4)</sup>かゝるのである。

1. les fins de mois et d'année. 2. le jour férié légal. 3. entraîner. 4. se faire d'une manière compliquée <sup>(1)</sup>とするも一法。

(648) 某とかやいひし世すて人の、この世のほだしももたらぬ身に、たゞ空のなごりのみぞ惜しきといひ



しこそ、まことにさも覚えぬべけれ。

(649) 本案は未だ<sup>(1)</sup>研究中にして、この問題に<sup>(2)</sup>缺く不可<sup>(3)</sup>ざる微細な調査を爲し得るには猶暫くの時日を要するであらう。

1. être à l'étude. 2. indispensable à を用ひてもいい。 3. les recherches minutieuses.

(650) 若し彼が我國の社會政策<sup>(1)</sup>方面のことにもつと思慮があつたならば、彼は先頃のあの重大な過失を速かに訂正したであらう。

1. être avisé au point de vue de..... 2. la faute grave commise récemment.

昭和二年四月廿日印 刷

昭和二年四月卅日發 行

【定價金壹圓】

和文佛譯問題集奥付

編 者 ラ・スムーズ編輯部

發行者 福岡易之助  
東京市神田區小川町三〇

印刷者 岩本米次郎  
東京青山南町七丁目二番地

印刷所 愛光堂印所刷  
東京青山南町七丁目二番地

發 行 所

東京市神田區小川町卅番地

白 水 社

振替東京一一九二二番  
電話神田三五九八番



白水社發行佛蘭西語書類

編者	書名	版次	定價	送料
十大家共編	模範佛和大辭典	三六版 總革裝	9.00	.27
佛蘭西文學會編	新佛和小辭典	袖珍版 總革裝	2.80	.14
ルノンドウ著 改訂	佛和兵語辭典	三六版 總革裝	2.80	.14
目黒三郎 共著 徳尾俊彦	佛蘭西廣文典	四六版 洋布裝	3.00	.18
内藤濯著	實習佛蘭西文典	四六版 洋布裝	1.70	.08
増田俊雄著	佛文手紙の書き方	三六版 洋布裝	2.30	.16
板倉貞男著	例解和文佛譯法	四六版 洋布裝	2.80	.18
佛蘭西文學會編	佛蘭西動詞變化の栞	三六版 洋布裝	1.00	.04
丸山順太郎 関 岸田國士 譯註	佛蘭西文學譯註叢書第一編 モパッサン二人の女	四六版 洋布裝	1.50	.06
丸山順太郎 関 奥村 稔 譯註	第二編 アンリ・ラヴダン 彼等の心	四六版 洋布裝	1.50	.06
丸山順太郎 関 草野貞之 譯註	第三編 アンリ・ド・レニエ 水都を描く	四六版 洋布裝	1.50	.06
折竹 錫 関 八木 さわ子 譯註	第四編 ド・オテエ月羅物語	四六版 洋布裝	1.50	.06
丸山順太郎 関 岸田國士 譯註	第五編 クワル・トリキヌ 我が家の平和	四六版 洋布裝	1.50	.06
内藤濯 共著 宮原晃一郎 譯	對譯註 サロメ	四六版 洋布裝	1.30	.06

白水社發行佛蘭西語教科書類

基本佛蘭西文典教科書 Cours Abrégé de Grammaire Française	「ラ・スムーズ」編
四六版洋布裝 定價金七〇錢 七〇餘頁 送料 四錢	初級用
麥の一粒 Un Grain de Blé	杉田義雄編
四六版 定價金六〇錢 六〇餘頁 送料 四錢	初等短期講習用
ふらんす語教科書 Livre de Langue Française	佛蘭西文學會編
四六版 定價金壹圓 一三〇餘頁 送料 四錢	初級用 中級用
モウパッサン中篇小説選 Maupassant : Deux Nouvelles	「ラ・スムーズ」編
四六版 定價金八〇錢 九〇餘頁 送料 四錢	中級用
ミゼラブル抄 Victor Hugo : La Chute	「ラ・スムーズ」編
四六版 定價金八〇錢 八〇餘頁 送料 四錢	中級用
盲人 (外一篇) M. Maeterlinck : Les Aveugles Etc.	佛蘭西文學會編
四六版 定價金五〇錢 五〇餘頁 送料 四錢	中級用
伯林攻圍 A. Daudet : Le Siège de Berlin	佛蘭西文學會編
四六版 定價金五〇錢 五〇餘頁 送料 四錢	中級用
ココロ Ed. de Amicis : Cuore	佛蘭西文學會編
四六版 定價金八〇錢 一一〇餘頁 送料 四錢	中級用
コロンバ (一) P. Mérimée : Colomba (Extraite)	佛蘭西文學會編
四六版 定價金七〇錢 八〇餘頁 送料 四錢	中級用
ダヴェネル論文二篇 D'Avenel : Deux Essais	「ラ・スムーズ」編
四六版 定價金五〇錢 五〇餘頁 送料 四錢	上級用



白水社發行佛蘭西語書類

日佛兩文月刊雜誌  
杉田義雄主幹

*LA SEMEUSE*

(ラ・スムーズ)

斯界の最高權威者のみによつて編まれつゝある本誌は從來の語學雜誌の通幣を悉く脱して豊かなる趣味談笑の間によくふらんす語の眞髓を徹し得るやう、あらゆる方面から示導誘掖する語學研の無二の好伴呂である。

毎月一回一日發行・定價金五拾錢・送料壹錢

六ヶ月分金三圓(送料共) 一ヶ年分五圓五拾錢(送料共)

~~~~~  
田 島 清 講 述

ジ・ヴェルニエー・杉田義雄校閲

### 趣味の佛蘭西語講習録

本書は佛語教育に多年の經驗を重ね而も最近數年間巴里生活の機微に徹した田島氏の入念な編輯に係るもので、始めて佛語を學ぼうとする人の爲には最良の獨習書であり、中等程度の學力を有する人の爲には趣味的參考書となり、外國語の教育に従事する先生の爲には有益な資料を提供し、佛語研究に熱心な婦人方の爲にも誠に適切な獨習書である。

六ヶ月完成・内容見本送呈

毎年四月・十月・二回開講・會費一ヶ月金壹圓・送料四錢

三ヶ月金參圓(送料共) 六ヶ月金五圓五拾錢(送料共)



特234

342

終